

# Panasonic

## 取扱説明書

工事説明付き

### ワイヤレス受信機

品番 **WX-R822**

# RAMSA



上手に使って上手に節電

#### 保証書別添付

- このたびは、ワイヤレス受信機をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
- この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」(6～8ページ)は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
  - 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

# はじめに

## 商品概要

本機は、FPU-2帯（779 MHz～788 MHz）、FPU-4帯（797 MHz～806 MHz）、B帯（806 MHz～810 MHz）対応の2波用ダイバシティ受信機です。

- PLLシンセサイザー方式の採用によりAX帯（FPU-2帯）71波・A帯（FPU-4帯）71波・B帯30波の計172波から希望の2波の周波数が選択できます。（選択できる2波は、同一のシステムバンド内にかぎります。）
- アンテナから受信機までは、ダウンコンバーター方式で260 MHz帯、248 MHz帯で伝送するため、高周波損失が少なく、電波との混信がありません。
- ダイバシティ受信には独自に開発したRAMSAシリーズの専用ICを採用。受信状態が良好な方を常に選択し、安定した出力を実現しています。
- スケルチのレベルは解除／Low [LO] ／High [HI] から選択が可能です。また、トーンスケルチはRAMSAシリーズとPanasonicシリーズの両方のワイヤレスマイクに対応しているため、多様な使用環境に適用することが可能です。
- ダウンコンバーター方式のアンテナ\*を使用すれば、受信感度設定によりアンテナの受信感度のリモート制御が可能です。（※該当品番：WX-RAX922/L、WX-RAX922/H、WX-RA922/L、WX-RA922/H、WX-RB922：別売品）
- 前面パネルの表示灯にはLED（発光ダイオード）を採用し、視認性を高めています。LEDの輝度は2段階で切り替えが可能（ディマー機能）で、設置環境に応じて調節できます。

注：本書に掲載している別売品の品番は、2004年11月現在のものです。

## 付属品をご確認ください

取扱説明書（本書）	1冊	以下の付属品は取付工事に使用します。	
保証書	1枚	ロック取付用ねじ（バインド小ねじM5×12）	4個
システムバンド設定用小型ドライバー	1個	ゴム足	5個
ACケーブル	1本		

## 免責について

- 弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。
- ① 本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ② お客様の故意や誤使用、不注意による障害または本商品の損傷など
- ③ お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず発生した一切の故障または不具合
- ④ 本商品の故障・不具合および設定・設置の誤りを含む何らかの理由または原因により、運用ができないことで被る不便・損害・被害
- ⑤ 第三者の機器等と組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
- ⑥ 第三者の機器から発せられる電波により、本商品が使用できないまたは使用できないことによる不便・損害・被害
- ⑦ 故意または偶然の結果、通話内容が第三者に傍受・漏えいすることによる不便・損害・被害

本商品の無線通話はアナログ方式を採用しており、傍受を抑制する機能はありません。故意または偶然の結果、第三者が傍受し、通話内容を知り得ることがあります。

## 用語・記号について

本書では、以下の用語および記号を用いて説明しています。

**ダイバシティ方式**

複数のアンテナで受信した信号のうち、電波の安定した信号を採用する方式です。本機では、A系とB系の2つのアンテナ回路を使用してそれぞれのチューナー内部に両方の受信部を持ち、安定した信号を選択して出力します。

**PLL（フェーズロックドループ）シンセサイザー方式**

自動的に周波数のずれを修正し、安定して信号を受信する方式です。

**ダウンコンバーター方式**

FPU-2帯、FPU-4帯、B帯で受信した電波を、アンテナで260 MHz帯、248 MHz帯に変換して伝送する方式です。高周波損失が少なく、アンテナから受信機までは、電波による影響を受けないため、事前のシステム設計が容易です。

**スケルチ機能**

受信待ち状態のときに、あらかじめ設定された条件によって受信する電波を自動的に制限し、必要な信号のみを受信する機能です。本機には、RAMSAシリーズ、Panasonicシリーズのワイヤレスマイクからの特定周波数を含まない電波を回避する「トーンスケルチ機能」と、受信感度を下げることによって混信してくる弱い電波を回避する「レベルスケルチ機能」の2つの機能があります。

**システムバンド**

本機で受信する周波数帯域のことです。背面のシステムバンド設定スイッチで設定します。

本機では、FPU-2帯に対応するAX帯をXLバンドとXHバンド、FPU-4帯に対応するA帯をALバンドとAHバンドとし、B帯を含めた5バンドからシステムバンドを選択します。（下の「FPU（フィールドピックアップユニット）帯域とバンドの関係」をお読みください。）また、多チャンネル使用の場合は、複数のバンドを組み合わせることでチャンネル数を増やします。その際は、バ

ンドごとにシステムを組み、同一のシステムバンドに設定します。

**グループ**

各チャンネルの受信周波数を、使用するチャンネル数に合わせてあらかじめ選択し、組み合わせたものです。使用目的や環境に合わせて選択します。

**チャンネル**

同一グループ内で、同時に受信可能な周波数に番号をつけたものです。1チャンネルに1周波数が割り当てられ、本機1台で、2チャンネルの受信が可能です。単に周波数を数えるときは、1波、2波…と数えます。

**ディマー機能**

前面パネルのチューナー部の各表示灯の輝度を切り替える機能です。

**多チャンネル**

ワイヤレスマイクを同時に8本以上使用する設定です。1つのバンドで同時に使用できるチャンネルは7つまでのため、多チャンネル使用の場合は、複数のバンドを組み合わせることで多チャンネルのプランを策定する必要があります。本機を使用してシステムを組むと、最大12までチャンネルを同時に使用できます。詳しくは、周波数表（49～51ページ）をお読みください。



：該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。



：使用上のヒントが書かれています。

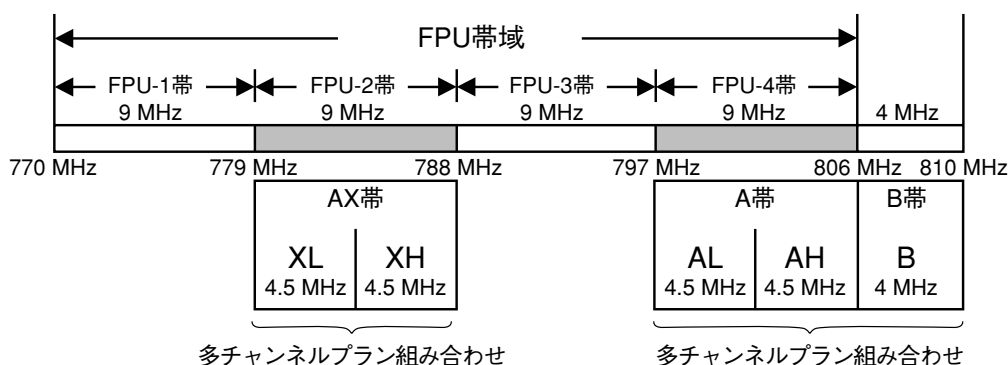


：該当のスイッチを押す動作を示しています。  
※そのときの機器の表示は、スイッチを押す前の状態です。

## ● FPU（フィールドピックアップユニット）帯域とバンドの関係

AX帯とA帯の各バンドは、FPU帯域において下図のように割り当てています。

また、B帯は806 MHz～810 MHzの帯域です。



# もくじ

ご  
使用  
前  
に

## ご使用 前に

はじめに	2
商品概要	2
付属品をご確認ください	2
免責について	2
用語・記号について	3
<b>もくじ</b>	<b>4</b>
<b>安全上のご注意</b>	<b>6</b>
取り扱い上のお願ひ	8
<b>各部のなまえと働き（前面パネル）</b>	<b>9</b>
<b>各部のなまえと働き（背面パネル）</b>	<b>12</b>

操  
作

## 操作

<b>電源のON/OFF</b>	<b>13</b>
電源を入れる	13
電源を切る	13
<b>バンド・グループ・チャンネル表示の見かた</b>	<b>14</b>
バンド表示の見かた	14
グループ表示の見かた	14
チャンネル表示の見かた	14
<b>基本的な操作のしかた</b>	<b>15</b>
音声出力をモニターする	15
周波数表示を切り替える	16
ワイヤレスマイクの電池電圧を表示する	16
ワイヤレスマイクの電池残量を確認する	17
表示灯の輝度を切り替える（ディマー機能）	17
バンド・グループ・チャンネルの基本情報を表示する	18
<b>バンド、グループ、チャンネル、周波数、スケルチを 変更する&lt;変更モード&gt;</b>	<b>20</b>
変更モードに切り替える	20
各種設定を変更する	21
チューナー動作に戻る（変更モードの終了）	23
<b>受信状況を確認する&lt;スキャンモード&gt;</b>	<b>24</b>
スキャンモードに切り替える	24
グループ、チャンネルをスキャンする	25
チューナー動作に戻る（スキャンモードの終了）	26

設  
置  
・  
設  
定

必  
要  
な  
と  
き

設置・設定

**設置・設定を始める前に**.....27

はじめに .....27

設置・設定手順 .....27

システム設置例 .....28

**設置のしかた**.....29

設置上のご注意 .....29

ラックマウントの場合 .....30

据え置きの場合 .....31

**システム構成例**.....32

**接続のしかた**.....34

接続について .....34

2波受信の場合（アンテナ数2本の例） .....34

3～7波受信の場合（アンテナ数4本の例） .....35

表示用出力コネクタの仕様について .....36

**設定のしかた**.....37

設定上のご注意 .....37

システムバンドを設定する .....37

バンド、グループ、チャンネル、スケルチを設定する .....37

受信感度を設定する .....38

**ご参考**.....40

各種設定を工場出荷状態に戻す .....40

アンテナ設置の考えかた .....41

必要なとき

**故障とかわれましたら**.....43

**仕様**.....48

**周波数表**.....49

周波数表：AX帯（FPU-2帯） .....49

周波数表：A帯（FPU-4帯）・B帯 .....50

システム設定一覧 .....51

**保証とアフターサービス** .....裏表紙

# 安全上のご注意

必ずお守りください

ご使用前に

お使いになる人やほかの人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



**警告**

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



**注意**

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）



このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

## 警告

### 工事は販売店に依頼する



工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因になります。

- 必ず販売店にご依頼ください。

### 異物を入れない



禁止

水や金属が内部にはいると、火災や感電の原因になります。

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

### 分解しない、改造しない



分解禁止

火災や感電の原因になります。

- 修理や点検は、販売店にご連絡ください。

### 機器の上に水などの入った容器を置かない



水ぬれ禁止

水などが中に入った場合、火災や感電の原因になります。

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

### 異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、臭いがするなど、そのまま使用すると火災の原因になります。

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

### 不安定な場所に置かない



禁止

落下によるけがの原因になります。

## ⚠ 警告

### ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない



ぬれ手禁止

感電の原因になります。

### 電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない

( 傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたりしない )



禁止

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

- コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

### 電源プラグのほこりなどは定期的にとる



プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

### 電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

### コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流100V以外での使用はしない



禁止

たこ足配線などで、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

### 電源コードは、必ずプラグ本体を持って抜く



コードが傷つき、火災や感電の原因となります。

### アースを確実に取り付ける



本機の電源プラグはアース端子付き2芯プラグです。アースは確実に行ってご使用ください。アースを取り付けないと、故障や漏電のときに、感電するおそれがあります。

- アース工事は販売店にご依頼ください。(アース工事費は、本製品の価格には含まれていません)

## ⚠ 注意

### 振動や強い衝撃を与えない



禁止

火災や感電、故障の原因になります。

### 湿気やほこりの多い場所に設置しない



禁止

火災や感電、故障の原因になります。

## 取り扱い上のお願ひ

### ●電源について

- ご使用の電源は、AC100 V (50 Hz/60 Hz) です。ご使用後は、必ず電源スイッチをOFFにしてください。
- 電源スイッチをOFFにしても、電源からは遮断されません（電源表示灯が消灯しても、電源が遮断されているとはかぎりません）。電源を遮断する場合は、ACコンセントから本機の電源プラグを抜くか、または電源制御ユニット使用時は電源制御ユニットの電源を切ってください。

### ●ワイヤレスマイクについて

- 本機と組み合わせて使用できるワイヤレスマイクはFPU-2帯、FPU-4帯、B帯です。ワイヤレスマイクの周波数は、本機のチューナーの周波数と合わせて使用してください。
- ワイヤレスマイクどうしは、50 cm以上離してご使用ください。複数のワイヤレスマイクが使用時に近接すると、混信を起こします。
- ワイヤレスマイクとアンテナの距離は、到達距離の最小値以上（38ページ）離してご使用ください。近づきすぎると、混信を起こします。
- 同時に使用できるワイヤレスマイクは、バンド単独使用時は同一グループ内の7波までです。多チャンネル使用の場合は、最大12波まで使用できます（49～51ページ）。
- 対応するワイヤレスマイクがOFFになっているチューナーでは、設定している周波数が近いほかのワイヤレスマイクの影響で、受信レベル表示が赤色に点灯する場合がありますが、運用に支障はありません。

### ●使用温度範囲は

- 10℃～+50℃です。この温度範囲以外で使用すると、内部の部品に悪影響を与えたり、誤動作の原因となることがあります。
- 本機をパワーアンプなどの発熱する機器と一緒にラックに取り付けている場合は、ラック内の温度が+45℃を超えないように通風や換気をよくしてください。

### ●ワイヤレスマイクの電池電圧・残量表示について

- ワイヤレスマイクとアンテナの距離が離れると、受信電圧が低下し、ワイヤレスマイクから送られてくる電池電圧および残量のデータが読み取れない場合があります。これらの表示機能は、電圧を安定して受信できる範囲内にて、ご使用ください。ワイヤレスマイクからアンテナまでの距離（電波の到達距離）については、「受信感度を設定する」（38ページ）をお読みください。

### ●ノイズについて

- 電灯器具などの電気機器の電源をON/OFFするときに発生するノイズの影響で、受信機から大きなノイズ音が発生する場合があります。また、蛍光灯やOA機器、監視カメラ、業務用カメラなどもノイズ源となります。ノイズ源からワイヤレス機器および同軸ケーブルを遠ざけることにより、ノイズ音を低減できます。

### ●操作や扱いについて

- 各スイッチ、つまみ、端子、アクリルパネルに無理な力を加えることは避けてください。
- 落下させたり、強い衝撃や振動を与えたりすると、故障や事故の原因となりますので、ていねいにお取り扱いください。

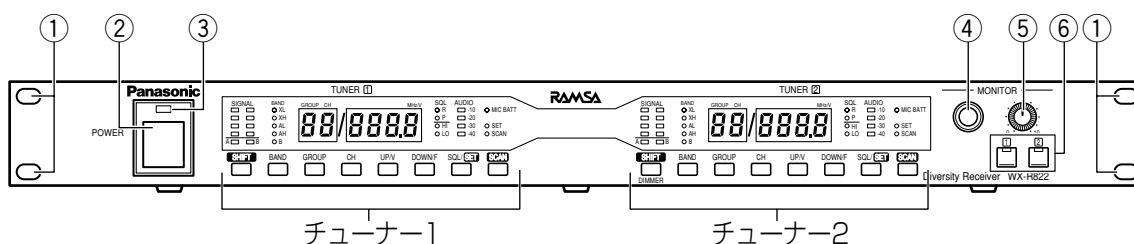
### ●お手入れは

- 電源コードをコンセントから抜いて、乾いた布でふいてください。汚れが取れにくいときは、薄めた台所用洗剤（中性）をやわらかい布にしみ込ませ、固く絞ってから軽くふいてください。そのあと、乾いたやわらかい布で洗剤を完全にふき取ってください。
- ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きにしたがってください。



# 各部のなまえと働き (前面パネル)

## ●前面部



### ① ラックマウント用取付穴

本機をラックに取り付ける際に使用します。詳しくは、「ラックマウントの場合」(30~31ページ)をお読みください。

### ② 電源スイッチ [POWER]

本機の電源をON/OFFします。

### ③ 電源表示灯

電源スイッチ②をONにすると緑色に点灯します。OFFのときは消灯しています。

### ④ モニタージャック [MONITOR]

ステレオ大型プラグ (8 Ω対応) のヘッドホンを接続して、音声出力を確認できます。

### ⑤ モニター音量調節つまみ [MONITOR]

モニター出力を聴きやすい音量に調節してください。

### ⑥ モニター選択スイッチ [MONITOR 1、2]

モニターする音声出力を、チューナー1またはチューナー2から選択します。選択すると、表示灯が緑色に点灯します。

チューナー1のみ選択時 : L、Rからチューナー1の音声が出力

チューナー2のみ選択時 : L、Rからチューナー2の音声が出力

チューナー1・2選択時 : Lからチューナー1、Rからチューナー2の音声が出力

チューナー1・2非選択時 : 音声出力なし

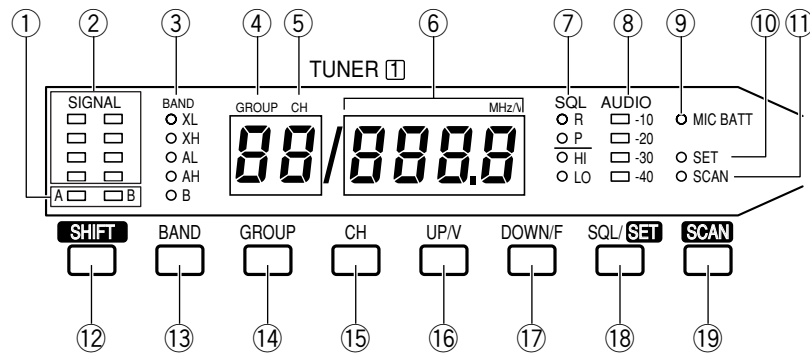


- モニター出力は、音声出力の有無を確認するためのものなので、背面の音声出力 [OUTPUT] に比べ、大音量時には音が歪むことがあります。

# 各部のなまえと働き（前面パネル）

## ●チューナー部

チューナー1とチューナー2は、ディママー機能（17ページ）以外は同仕様です。ここでは、チューナー動作時（通常運用状態）について説明します。



### ① ダイバシティ表示 [A、B]

A系・B系アンテナのダイバシティ受信の状態を表示灯の点灯で表示します。

緑色：ダイバシティ方式で選択された状態

橙色：ダイバシティ方式で選択されていない状態

消灯：設定されたスケルチにより音声が出力されていないか、電波を受信していない状態

### ② 受信レベル表示 [SIGNAL A、B]

A系・B系アンテナがそれぞれ受信している電波の強さを4段階で表示します。電波の強さのピークが、下から3つ目か4つ目までの表示灯が点灯する程度であれば、安定して受信しているといえます。

緑色：スケルチ設定条件を満たして電波を受信し、なおかつダイバシティ方式で選択された状態

橙色：スケルチ設定条件を満たして電波を受信しているが、ダイバシティ方式で選択されていない状態

赤色：スケルチ設定条件を満たさず、音声が出力されていない状態

消灯：電波をまったく受信していないか、表示灯が点灯しないほどの微弱な受信状態

### ③ バンド表示 [BAND]

背面のシステムバンド設定スイッチで選択されているバンドを緑色で表示します。

また、多チャンネル使用時にはシステムバンド以外の使用バンドを橙色で表示します。詳しくは、「バンド・グループ・チャンネル表示の見かた」（14ページ）をお読みください。

### ④ グループ表示 [GROUP]

設定されたグループを表示します。詳しくは、「バンド・グループ・チャンネル表示の見かた」（14ページ）をお読みください。

### ⑤ チャンネル表示 [CH]

設定されたチャンネルを表示します。詳しくは、「バンド・グループ・チャンネル表示の見かた」（14ページ）をお読みください。

### ⑥ 周波数／電池電圧表示 [MHz/V]

設定されたチャンネルの周波数を表示します。[BAND]スイッチ⑬を押すと、バンド・グループ・チャンネルの基本情報に切り替わります。詳しくは、18～19ページをお読みください。また、電池電圧表示機能<sup>\*</sup>に対応したワイヤレスマイクをご使用の場合、[UP/V] スイッチ⑯を押すことにより、ワイヤレスマイクの電池電圧を表示します。

※ワイヤレスマイクの電池電圧表示機能については16ページをお読みください。

## 各部のなまえと働き（前面パネル）

### ⑦ スケルチ表示 [SQL]

スケルチの設定状態を表示します。詳しくは、「スケルチ設定の目安」（23ページ）をお読みください。

- R点灯 : RAMSAシリーズのトーンスケルチ設定（トーン周波数：32.927 kHz）
- P点灯 : Panasonicシリーズのトーンスケルチ設定（トーン周波数：32.768 kHz）
- R、Pともに消灯 : トーンスケルチ解除
- HI点灯 : 到達距離が最大の1/2となるレベルスケルチ設定
- LO点灯 : 到達距離が最大となるレベルスケルチ設定
- HI、LOともに消灯 : レベルスケルチ解除

### ⑧ 音声出力レベル表示 [AUDIO]

音声出力レベルを6段階で表示します（下の数値は、おおよその目安です）。

- 出力なし～-46 dB : すべて消灯
- 46 dB～-16 dB : [-40]、[-30]、[-20]の表示灯が出力レベルにより緑色に点灯
- 16 dB～-6 dB : [-40]～[-20]の表示灯は緑色、[-10]の表示灯は橙色に点灯
- 6 dB～過大出力時 : すべての表示灯が赤色に点灯

### ⑨ マイク電池残量表示 [MIC BATT]

電池残量表示機能\*に対応したワイヤレスマイクをご使用の場合、マイクの電池残量を緑色／橙色／赤色で表示します。

※ワイヤレスマイクの電池残量表示機能については、17ページをお読みください。

### ⑩ 変更モード表示 [SET]

変更モード時に緑色に点滅します。変更モードの操作方法については、20～23ページをお読みください。

### ⑪ スキャンモード表示 [SCAN]

スキャンモード時に緑色に点滅します。スキャンモードの操作方法については、24～26ページをお読みください。

### ⑫ [SHIFT] スイッチ

チューナー動作から、変更モードまたはスキャンモードに移るときに他のスイッチと組み合わせて使用します。また、チューナー2で3秒以上押し続けると、チューナー部（前面パネル）の表示灯の輝度が切り替わります。詳しくは、「表示灯の輝度を切り替える（ディマー機能）」（17ページ）をお読みください。

### ⑬ [BAND] スイッチ

バンド・グループ・チャンネルの基本情報を表示します。詳しくは、18～19ページをお読みください。

### ⑭ [GROUP] スイッチ

変更モードで、グループの設定を行うことができます。チューナー動作時は、押ししても無効です。

### ⑮ [CH] スイッチ

変更モードで、チャンネルの設定を行うことができます。チューナー動作時は、押ししても無効です。

### ⑯ [UP/V] スイッチ

周波数／電池電圧表示⑥を、周波数表示から電池電圧表示に切り替えます。

### ⑰ [DOWN/F] スイッチ

周波数／電池電圧表示⑥を、電池電圧表示から周波数表示に切り替えます。

また、周波数表示時には、6ケタの設定値のうちの上位4ケタと下位4ケタの表示を切り替えます。詳しくは、「周波数表示を切り替える」（16ページ）をお読みください。

### ⑱ [SQL/SET] スイッチ

[SHIFT] スイッチ⑫を押しながら押すと、変更モードに移ります（1秒以上押し続けてください）。

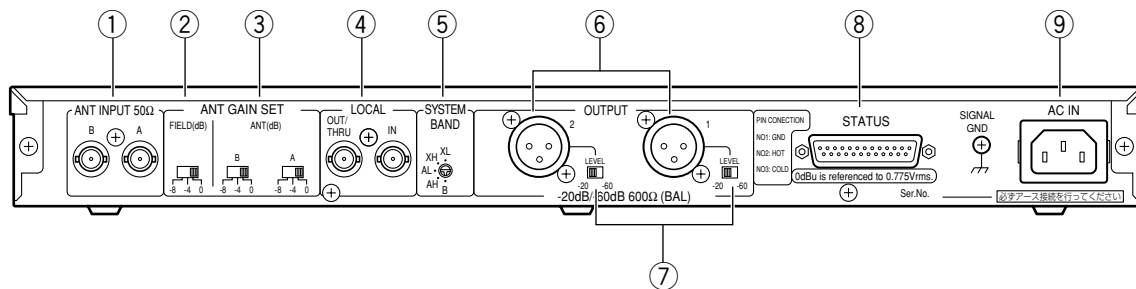
### ⑲ [SCAN] スイッチ

[SHIFT] スイッチ⑫を押しながら押すと、スキャンモードに移ります（1秒以上押し続けてください）。

# 各部のなまえと働き (背面パネル)



- 接続については、「接続のしかた」(34～36ページ)をお読みください。
- 設定については、「設定のしかた」(37～39ページ)をお読みください。



- ① アンテナ入力コネクタ [ANT INPUT 50 Ω A、B]**  
アンテナまたはワイヤレス混合分配器からの同軸ケーブル (50 Ω) を接続します。  
※同軸ケーブルは50 Ωを推奨しますが、75 Ωでも使用できます。
- ② フィールド感度切替スイッチ [ANT GAIN SET FIELD(dB)]**  
アンテナで受信する感度を設定します。A系、B系の両方が同じ設定になります (38ページ)。
- ③ アンテナ感度切替スイッチ [ANT GAIN SET ANT(dB) A、B]**  
A系・B系アンテナごとのアンテナ感度を設定します (38ページ)。
- ④ ローカル入出力コネクタ [LOCAL IN、OUT/THRU]**  
ワイヤレス混合分配器 (WX-R901 : 別売品) と接続します。また、本機を増設するときを使用します (35ページ)。
- ⑤ システムバンド設定スイッチ [SYSTEM BAND XL/XH/AL/AH/B]**  
システムバンドを設定します。  
使用するアンテナのバンド (XL/XH/AL/AH/B) と合わせて設定してください (37ページ)。
- ⑥ アウトプットコネクタ [OUTPUT 1、2]**  
チューナー1、2の音声出力コネクタです。ミキサーなどの接続機器にキャノンタイプコネクタ (XLR-3-32) で接続します。
- ⑦ レベル切替スイッチ [LEVEL -20 dB/-60 dB]**  
ミキサーなどの接続機器に合わせてアウトプットの出力レベルを切り替えます。
- ⑧ 表示用出力コネクタ [STATUS]**  
チューナー1、2の受信状態 (ダイバシティ選択、A系・B系受信レベル、音声出力レベルなど) が出力されます (36ページ)。
- ⑨ ACインレット [AC IN]**  
AC100 V (50 Hz/60 Hz) を入力します。

# 電源のON/OFF

## 電源を入れる

本機の電源を入れ、ワイヤレスマイクの電波を受信します。

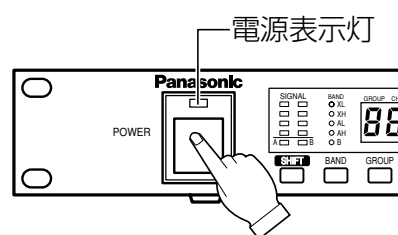
**1** 背面のアウトプットコネクタ [OUTPUT] に接続されているミキサーなどのフェーダーが絞られているか、またはパワーアンプなどの電源がOFFになっていることを確認する

**2** 電源スイッチを押してONにする

電源表示灯が緑色に点灯します。

前面パネルの表示灯の一部が数秒間点滅したあと、チューナー1、2の各表示灯が設定にしたがって点灯します。

- 他のワイヤレス機器などの電源も入れてください。



操作

**3** ワイヤレスマイクから送信する

チューナー動作状態になります。

- ワイヤレスマイクと本機の各チューナーのバンド、グループ、チャンネルの設定（周波数）が同じであることを確認してください。

## 電源を切る

ご使用後は、本機の電源を切ってください。

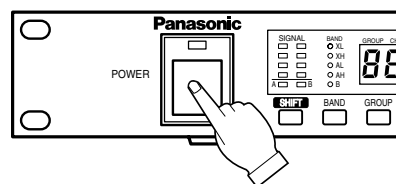
**1** ワイヤレスマイクの送信をOFFにする

**2** パワーアンプなどの電源をOFFにするか、またはミキサーなどのフェーダーを絞る

**3** 電源スイッチを押してOFFにする

電源表示灯を含め、すべての表示灯が消灯します。

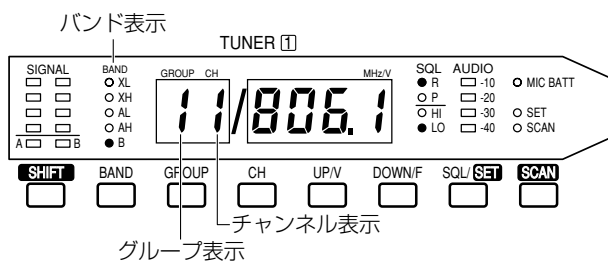
- ほかのワイヤレス機器などの電源も切ってください。



- 電源を切る手順は、必ず「パワーアンプの電源OFF」→「本機の電源OFF」としてください。逆順にすると、スピーカーからノイズが出る場合があります。
- 本機やワイヤレス混合分配器が複数台で構成されている場合も、同様の手順を守ってください。
- 運用中に本機やワイヤレス混合分配器の電源を切らないでください。受信中にシステムを構成しているうちの1台でも電源を切ると、ノイズが発生したり受信できなくなったりします。
- 変更モード（20～23ページ）、スキャンモード（24～26ページ）で設定を変更し、そのモードのまま電源を切った場合は、変更した内容は反映されません。変更モードの場合は必ずチューナー動作に戻し、スキャンモードの場合は変更反映操作を行って、チューナー動作に戻してから電源を切ってください。詳しくは、それぞれのページをお読みください。

# バンド・グループ・チャンネル表示の見かた

ここでは、チューナー部の各表示の基本的な見かたを説明します。各表示は、動作状態によって若干変わりますので、それぞれの場合の表示については、該当するページをお読みください。



## バンド表示の見かた

システムバンドを単独で使用する設定では、システムバンドが緑色に表示され、それ以外は消灯します。多チャンネル使用の場合は、システムバンドが緑色、それ以外の使用バンドが橙色で表示されます。多チャンネル使用時のバンドの組み合わせについては、周波数表（49～51ページ）をお読みください。表示の全パターンは以下のとおりです。

バンド表示一覧 システムバンド：緑色● 多チャンネルで使用：橙色● 未使用：消灯○

[BAND] 表示灯	システムバンドXL		システムバンドXH		システムバンドAL		システムバンドAH		システムバンドB						
	単独バンド時	多チャンネル時	単独バンド時	多チャンネル時	単独	多チャンネル時	単独	多チャンネル時	単独	多チャンネル時					
XL	●	●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
XH	○	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AL	○	○	○	○	●	●	●	●	○	●	○	●	○	●	○
AH	○	○	○	○	○	●	○	●	●	●	●	○	○	●	●
B	○	○	○	○	○	○	●	●	○	○	●	●	●	●	●

## グループ表示の見かた

設定されたバンド内のグループを1～7の数値および [-] で表示します。1～7グループでは、周波数表（49～51ページ）に記載のチャンネルが同時使用可能です。[-] グループの場合、同時に使用できるチャンネル数は1つです。

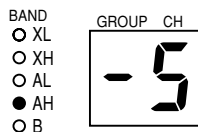
## チャンネル表示の見かた

設定されたバンド、グループ内のチャンネルを数値およびアルファベットで表示します。

表示	相当するチャンネル
1～9	その数値のチャンネル
A	10チャンネル目
b	11チャンネル目
C	12チャンネル目

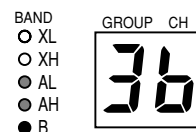
### 表示例（1）

- ・ AHバンド単独使用
- ・ ーグループ
- ・ 5チャンネル



### 表示例（2）

- ・ AL+AH+Bバンドの多チャンネル使用でシステムバンドがBバンド
- ・ 3グループ
- ・ bチャンネル（11チャンネル目）



- 本機が多チャンネル使用時のグループ構成と10チャンネル目以降のチャンネル表示のしかたは、ENG/ EFP用ワイヤレス受信機（WX-RJ800、WX-RJX800、WX-RJ700）とは異なりますのでご注意ください。

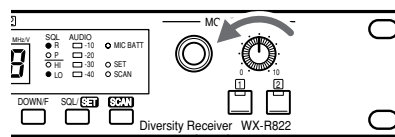
# 基本的な操作のしかた

## 音声出力をモニターする

各チューナーで受信した電波の音声出力をヘッドホンでモニターすることができます。

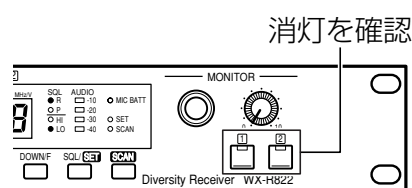
### 1 モニター音量調節つまみを左へ回す

音量が小さくなります。



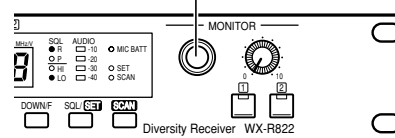
### 2 モニター選択スイッチの表示灯が消灯していることを確認する

点灯している場合はモニター選択スイッチを押して消灯させます。モニター選択スイッチは、押すたびに点灯と消灯を繰り返します。



### 3 モニタージャックにステレオタイプのヘッドホンプラグを挿入する

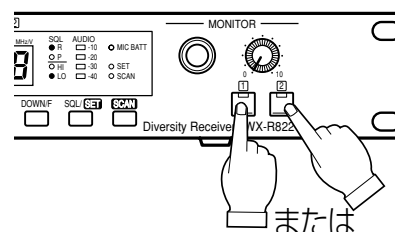
ヘッドホンプラグ挿入



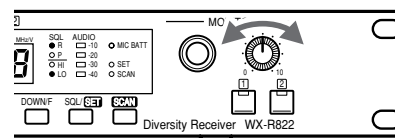
### 4 モニターしたい音声出力のモニター選択スイッチを押す

モニター選択表示灯が点灯します。

- モニター1のみを選択すると、LとRの両方からチューナー1の音声が出力されます。
- モニター2のみを選択すると、LとRの両方からチューナー2の音声が出力されます。
- モニター1・2を選択すると、L側からチューナー1、R側からチューナー2の音声が出力されます。



### 5 モニター音量調節つまみで音量を調節する



- モニター出力は、音声出力の有無を確認するためのものなので、背面の音声出力 [OUTPUT] に比べ、大音量時には音が歪むことがあります。
- モニタージャックに接続するヘッドホンプラグはステレオタイプをご使用ください。モノラルタイプを使用しますとモニター回路がショートして破損する恐れがあります。
- ワイヤレスマイクの送信がOFFで、なおかつ本機のトーンスケルチ、レベルスケルチが共に解除の場合、過大なノイズが出力されます。ワイヤレスマイクの電源を切ったり、乾電池を抜く際や、スケルチ設定を変更する際には十分ご注意ください。

## 周波数表示を切り替える

チューナー部の周波数表示のしかたを、上位4ケタ／下位4ケタに切り替えることができます。周波数は、MHz単位で小数点以下3位まで表示されます。周波数表（49～51ページ）でご確認ください。

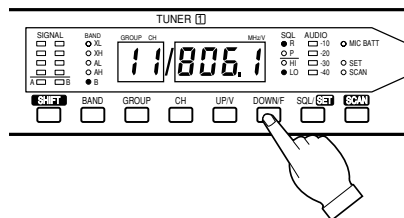
### 1 周波数表示中に、[DOWN/F] スイッチを押す

設定されたチャンネルの周波数の下位4ケタが、3秒間表示されます。

- 再度 [DOWN/F] を押すと、上位4ケタの表示に戻ります。
- 3秒間経過すると、自動的に上位4ケタの表示に戻ります。

<表示例>806.125 MHzの場合

806.1 → 6.125



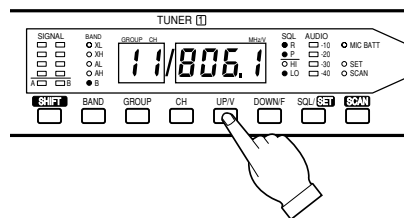
## ワイヤレスマイクの電池電圧を表示する

トーンスケルチを設定して受信している場合、ワイヤレスマイクの電池電圧を本機前面に表示させることができます。ただし、電池電圧表示機能に対応のワイヤレスマイクをご使用の場合にかぎります。

### 1 周波数表示中に、[UP/V] スイッチを押す

周波数表示が、ご使用のワイヤレスマイクの電池電圧表示に切り替わります（下図は1.5 Vの例です）。

806.1 → 1.5



- [DOWN/F] スイッチを押すと、周波数表示に戻ります。
- 次のような場合は、電池電圧が表示されず、以下の表示となります。
  - ・ トーンスケルチを設定していない場合
  - ・ ご使用のワイヤレスマイクが電池電圧表示機能に対応していない場合
  - ・ ワイヤレスマイクの電源を入れた直後や、電池電圧データが受信できない、更新できない場合

806.1 → --

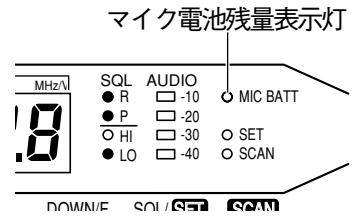


- 電池電圧表示機能に対応しているワイヤレスマイクは、WX-4800のみです。
- 表示される電池電圧値は、実際のワイヤレスマイクの電圧値と若干異なる場合があります。ご使用のワイヤレスマイクによって、実際の電圧値より高く表示されたり低く表示されたりしますが、一定の傾向がありますので、その傾向を考慮した上で、電圧値の目安としてお使いください。



# ワイヤレスマイクの電池残量を確認する

トーンスケルチを設定して受信している場合、ワイヤレスマイクの電池残量を本機前面のマイク電池残量表示灯で確認できます。ただし、電池残量表示機能に対応のワイヤレスマイクをご使用の場合にかぎります。



- Panasonic製電池を常温（25℃）で連続使用した場合、電池残量の目安は下表のとおりです。
- 「残量なし」と表示された場合は、新品の乾電池または満充電の充電電池と交換してください。

使用電池	マイク電池残量表示	電池残量の目安 (使用可能時間)	<参考>ワイヤレスマイク側の表示 (WX-4100Bの場合。詳しくは各機器の説明書を参照)
単3形マンガン乾電池 (R6PNB)	緑色	約3～10時間以上	赤色点灯：使用可能（新品電池で10時間以上） 赤色点滅：残量なし
	橙色	約3時間未満	
	赤色	残量なし	
単3形アルカリ乾電池 (LR6G)	緑色	約5～25時間以上	赤色点灯：使用可能（新品電池で25時間以上） 赤色点滅：残量なし
	橙色	約5時間未満	
	赤色	残量なし	
単3形オキシライド乾電池 (ZR6Y)	緑色	約5～35時間以上	赤色点灯：使用可能（新品電池で35時間以上） 赤色点滅：残量なし
	橙色	約5時間未満	
	赤色	残量なし	
専用充電電池パック (WX-4451)	緑色	使用可能(点灯しない場合あり)	赤色点灯：使用可能 赤色点滅：残量なし
	橙色	使用可能	
	赤色	残量なし	

次のような場合は、受信中でも表示灯が消灯します。

- ・ トーンスケルチを設定していない場合
- ・ ご使用のワイヤレスマイクが電池残量表示機能に対応していない場合
- ・ ワイヤレスマイクの電源を入れた直後や、電池残量データが受信できない、更新できない場合



- 電池残量表示機能に対応しているワイヤレスマイクは、WX-4100B、4101、4212B、4300B、4360B、4370B、4400B、4600、4601、4620、4700、4800（すべて別売品。Panasonic WX-シリーズ）です。
- トーンスケルチの [R] または [R] + [P] が設定されている場合に、電池電圧・電池残量表示が可能でず。スケルチ設定のしかたは、「バンド、グループ、チャンネル、周波数、スケルチを変更する<変更モード>」（20～23ページ）をお読みください。
- ワイヤレスマイクから電池電圧・電池残量表示用信号が約1分ごとに送出される際、微かに信号音が聞こえる場合がありますが、故障ではありません。ご使用に支障がある場合は、RAMSAシリーズのワイヤレスマイクをお使いください。

# 表示灯の輝度を切り替える（ディマー機能）

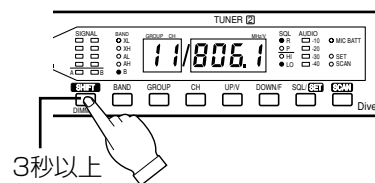
チューナー1、2の表示灯の輝度を切り替えます（電源表示灯とモニターの表示灯の輝度は切り替わりません）。輝度は2段階で切り替え可能です。

ディマー機能は、変更モード（20～23ページ）、スキャンモード（24～26ページ）でも使用できます。

## 1 チューナー2の [SHIFT] スイッチを3秒以上押し続ける

チューナー1と2の表示灯の輝度が切り替わります。

- 再度輝度を切り替える場合は、手順を繰り返します。



# バンド・グループ・チャンネルの基本情報を表示する

チューナー部には、通常、設定されたバンド・グループ・チャンネル・周波数が表示されますが、バンド単独使用で〔7〕グループに設定している場合や、多チャンネル使用の場合、その周波数がバンド単独使用の1~6グループのどのチャンネルに該当するかを表示することができます。これを、バンド・グループ・チャンネルの基本情報と呼びます。

基本情報は、周波数表（49~51ページ）の各受信周波数において、表の一番左端に記載されたバンド・グループ・チャンネルとなります。（詳しくは、周波数表をお読みください。）また、基本情報表示時には周波数表示部に、設定されたグループにおいて各バンドで設定できるチャンネル数が表示されます。

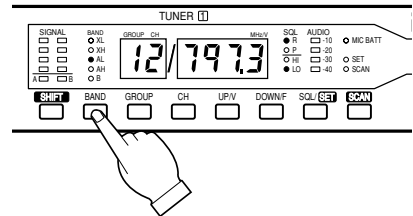
操作

## 1 チューナー動作中に〔BAND〕スイッチを押す

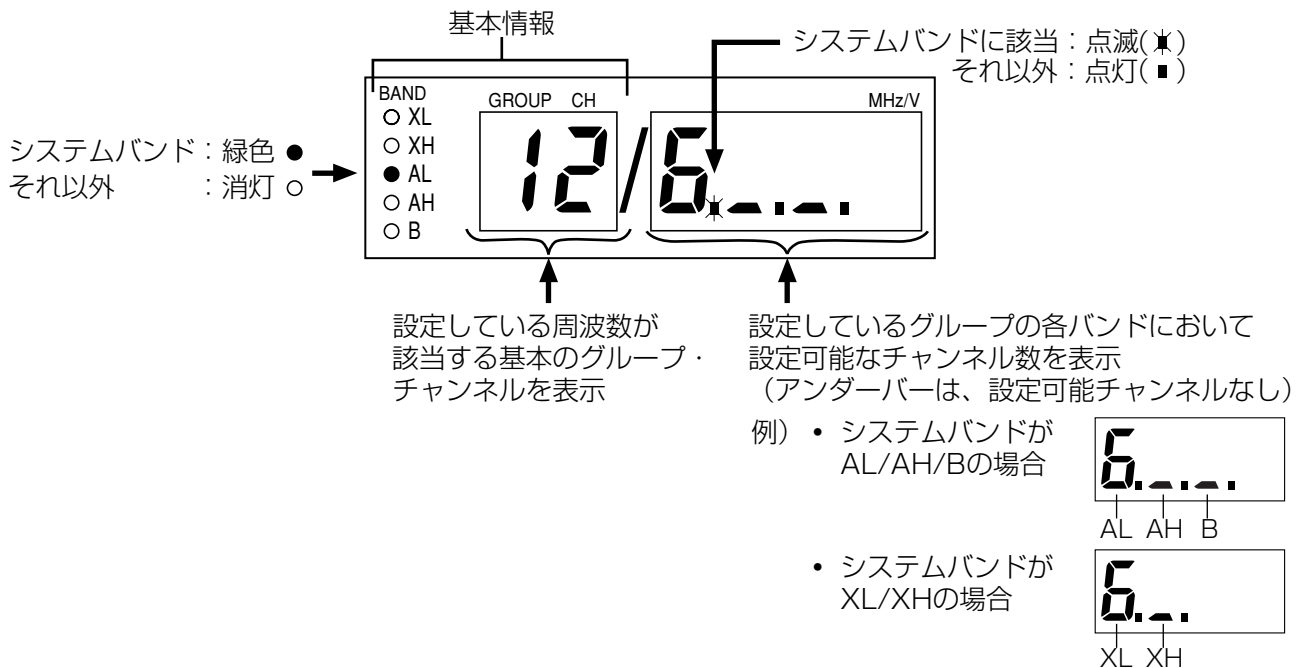
バンド・グループ・チャンネル表示が、3秒間基本情報に替わります。

周波数表示部には、各バンドの該当グループ内のチャンネル数が表示されます。

- 再度〔BAND〕スイッチを押すと、元の表示に戻ります。
- 3秒間経過すると、自動的に元の表示に戻ります。

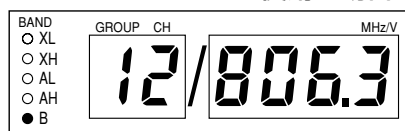


## ●基本情報とチャンネル数の見かた

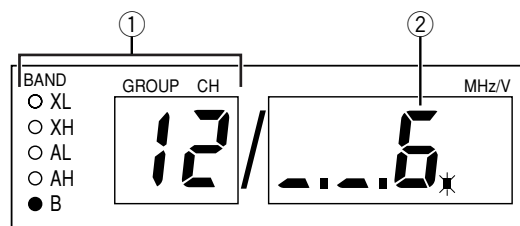


### <表示例1>

Bバンド、1グループ、2チャンネル、806.375 MHzをご使用の場合



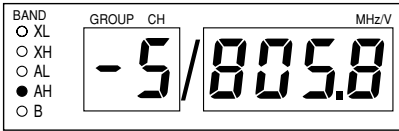
→  
〔BAND〕  
スイッチを押す



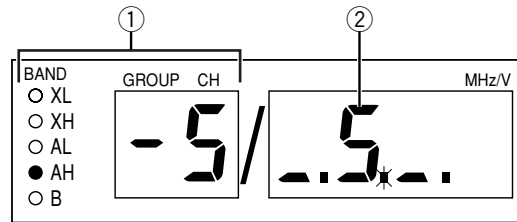
- ① 806.375 MHzの基本情報は、Bバンド、1グループ、2チャンネル（変化なし）
- ② Bバンドの1グループは6チャンネルまで設定可

## <表示例2>

AHバンド、一グループ、5チャンネル、  
805.875 MHzをご使用の場合



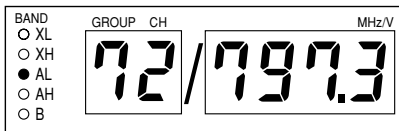
➡  
[BAND]  
スイッチを押す



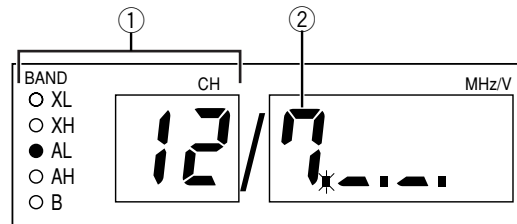
- ① 805.875 MHzの基本情報は、AHバンド、一グループ、5チャンネル (変化なし)
  - ② AHバンドの一グループでは、5チャンネルまで設定可\*
- \*: 一グループの場合、同時に使用できるチャンネルはこの中から1つだけです。

## <表示例3>

ALバンド、7グループ、2チャンネル、  
797.375 MHzをご使用の場合



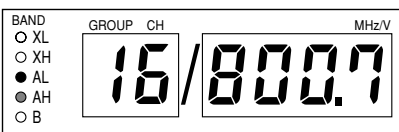
➡  
[BAND]  
スイッチを押す



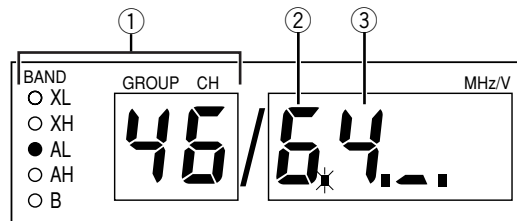
- ① 797.375 MHzの基本情報は、ALバンド、1グループ、2チャンネル
- ② ALバンドの7グループでは、7チャンネルまで設定可

## <表示例4 (多チャンネル使用)>

AL+AHバンド、1グループ、6チャンネル、  
800.750 MHzをご使用の場合



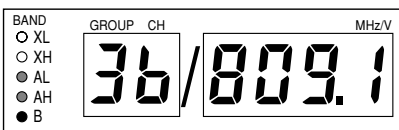
➡  
[BAND]  
スイッチを押す



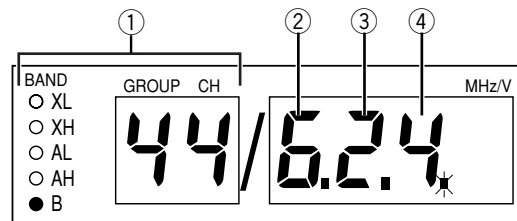
- ① 800.750 MHzの基本情報は、ALバンド、4グループ、6チャンネル
- ② AL+AHバンドの1グループでは、ALバンドで6チャンネルまで設定可
- ③ AL+AHバンドの1グループでは、AHバンドで4チャンネルまで設定可

## <表示例5 (多チャンネル使用)>

AL+AH+Bバンド、3グループ、4チャンネル、  
809.125 MHzをご使用の場合



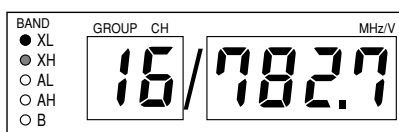
➡  
[BAND]  
スイッチを押す



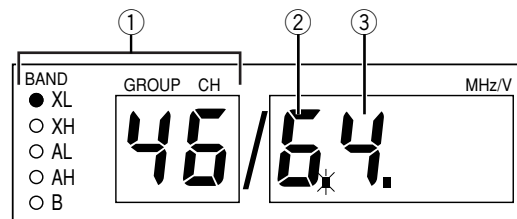
- ① 809.125 MHzの基本情報は、Bバンド、4グループ、4チャンネル
- ② AL+AH+Bバンドの3グループでは、ALバンドで6チャンネルまで設定可
- ③ AL+AH+Bバンドの3グループでは、AHバンドで2チャンネルまで設定可
- ④ AL+AH+Bバンドの3グループでは、Bバンドで4チャンネルまで設定可

## <表示例6 (多チャンネル使用)>

XL+XHバンド、1グループ、6チャンネル、  
782.750 MHzをご使用の場合



➡  
[BAND]  
スイッチを押す



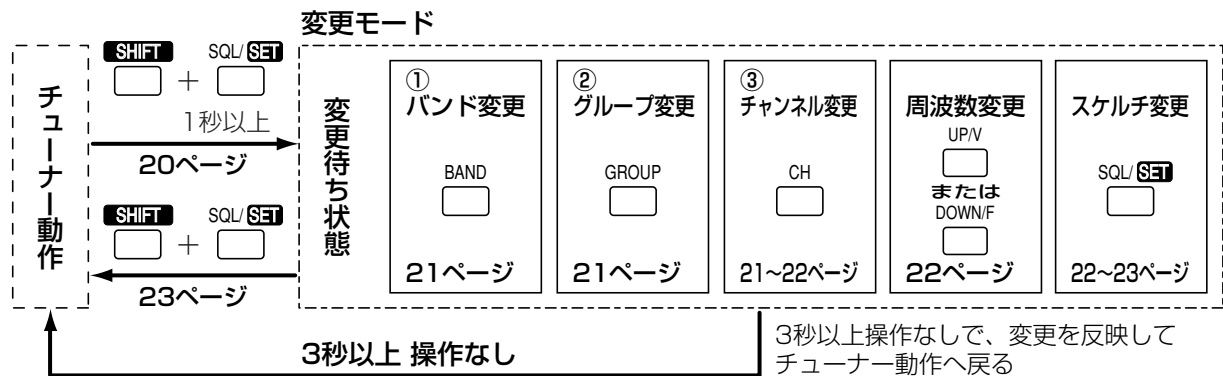
- ① 782.750 MHzの基本情報は、XLバンド、4グループ、6チャンネル
- ② XL+XHバンドの1グループでは、XLバンドで6チャンネルまで設定可
- ③ XL+XHバンドの1グループでは、XHバンドで4チャンネルまで設定可

# バンド、グループ、チャンネル、周波数、スケルチを変更する<変更モード>

バンド、グループ、チャンネル、周波数、スケルチの設定を変更することができます。変更する際には、周波数表(49～51ページ)をお読みのうえ、本機とアンテナを同じバンドに、本機のチューナーとワイヤレスマイクを同じ周波数(バンド、グループ、チャンネル)に設定してください。また、同時に使用するワイヤレスマイクはすべて同じバンド、グループとし、そのグループの中ですべて異なるチャンネルに設定してください。多チャンネル使用の場合は、ワイヤレスマイクを基本情報に合わせて設定してください。(「バンド・グループ・チャンネルの基本情報を表示する」(18～19ページ)参照)

設定の際には、「システム設定一覧」(51ページ)を活用いただくと便利です。

変更モードに切り替わってからの各操作は、3秒以内に行ってください。3秒以上操作しない状態が続くと、変更モードが終了してチューナー動作モードに戻ります。複数の変更を行う場合は、あらかじめ設定内容を把握してから行ってください。



- 重要**
- 変更操作の取り消しはできません。元の設定に戻す場合は、改めて設定し直してください。
  - 変更は、①バンド→②グループ→③チャンネルの順に行ってください。逆順に変更すると、先に変更した内容が後から変更した内容に伴って変わってしまう場合があります。また、周波数を変更すると、バンドはシステムバンド単独使用となり、グループとチャンネルはその周波数に対応するものになります。
  - 変更操作中に本機の電源を切ると、変更した内容は反映されません。必ずチューナー動作に戻ってから電源を切ってください。

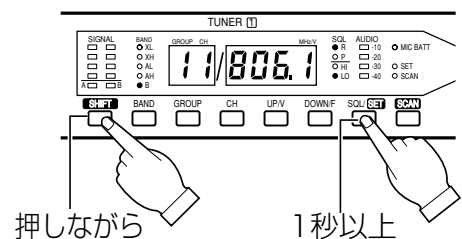
- メモ**
- 変更モードでは、電池電圧や電池残量を表示することはできません。電池電圧表示の状態で見替えた場合は、変更モードを終了すると、再び電池電圧表示となります。このとき、電池電圧・電池残量データを更新するため、表示されるまでに最大で1分程度の時間がかかる場合があります。
  - 変更モードでは、各項目を変更した瞬間(スケルチ変更ですべて解除にした場合のみ3秒間)は音声出力にミュートがかかりますが、それ以外のときは変更した内容にしたがって受信し、音声を出力します。

## 変更モードに切り替える

**1** 本機の電源を入れる(13ページ)

**2** チューナー動作中に、変更したいチューナーの [SHIFT] スイッチを押しながら、[SQL/SET] スイッチを1秒以上押し

変更モード中であることを示す変更モード表示 [SET] が点滅します。同時に、バンド、グループ、チャンネル、周波数、スケルチの各表示が点滅し、変更待ち状態となります。



## 各種設定を変更する

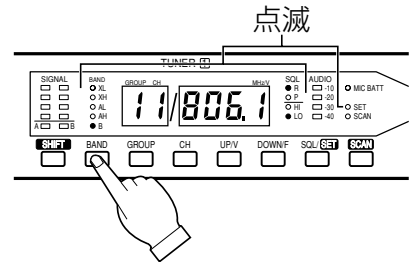
変更モードに切り替わったら、3秒以内に各スイッチを操作します。3秒以上経過すると、チューナー動作に戻ってしまいます。

### ● バンドを変更する システムバンドの設定により、単独使用と多チャンネル使用の範囲で変更できます。

#### 1 [BAND] スイッチを押す

バンドの表示灯が点滅し、バンド変更状態になります。

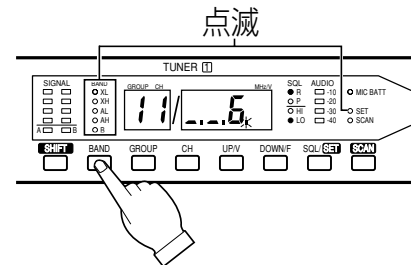
- 周波数表示は、多チャンネル使用時に設定可能な各バンドのチャンネル数となり、システムバンドに該当するピリオドが点滅します。「(バンド・グループ・チャンネルの基本情報を表示する) (18ページ) 参照)



#### 2 設定したい状態になるまで、[BAND] スイッチを繰り返し押す

押すたびに、バンド表示灯の状態が切り替わります。

- システムバンドの設定によって、バンド表示灯の点灯パターンは変わります。「(バンド表示のみかた) (14ページ) をお読みください。
- バンドの変更に伴い、グループ、チャンネルも変わる場合があります。
- 他の変更を行う場合は、該当するスイッチを押します。

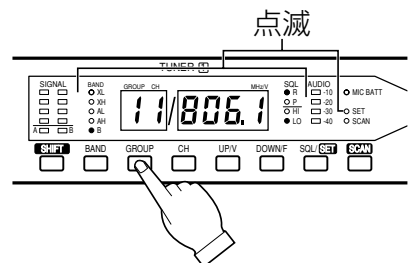


### ● グループを変更する 設定されたバンド内のグループの範囲で変更できます。

#### 1 [GROUP] スイッチを押す

グループの表示が点滅し、グループ変更状態になります。

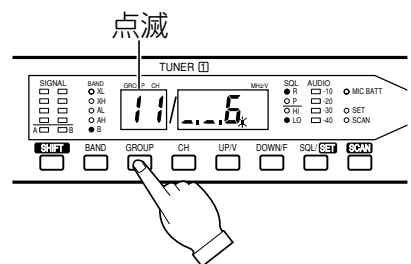
- 周波数表示は、多チャンネル使用時に設定可能な各バンドのチャンネル数となり、システムバンドに該当するピリオドが点滅します。「(バンド・グループ・チャンネルの基本情報を表示する) (18ページ) 参照)



#### 2 設定したい状態になるまで、[GROUP] スイッチを繰り返し押す

押すたびに、設定しているバンド内でグループの番号が上がります。

- 最大番号のグループまたは [-] グループのときに押すと、最小番号のグループに戻ります。
- グループの変更に伴い、チャンネルも変わる場合があります。
- 他の変更を行う場合は、該当するスイッチを押します。

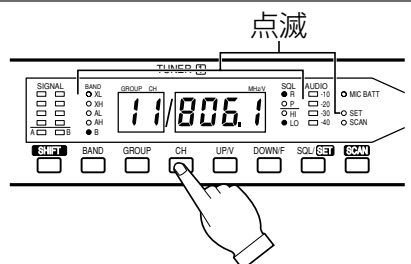


### ● チャンネルを変更する 設定されたバンドおよびグループ内のチャンネルの範囲で変更できます。

#### 1 [CH] スイッチを押す

チャンネルの表示が点滅し、チャンネル変更状態になります。

- チャンネル変更時は、表示されているチャンネルに対応する周波数が表示されます。

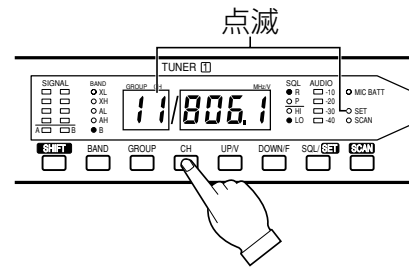


# バンド、グループ、チャンネル、周波数、スケルチを変更する<変更モード>

## 2 設定したい状態になるまで、[CH] スイッチを繰り返し押す

押すたびに、設定しているバンドとグループ内でチャンネルの番号が上がります。それに伴って、周波数も変わります。

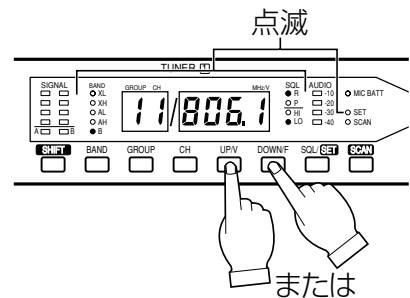
- 最大番号のチャンネルのときに押すと、最小番号のチャンネルに戻ります。
- 他の変更を行う場合は、該当するスイッチを押します。



## ● 周波数を変更する システムバンド内で周波数からグループとチャンネルを変更できます。

### 1 [UP/V] スイッチまたは [DOWN/F] スイッチを押す

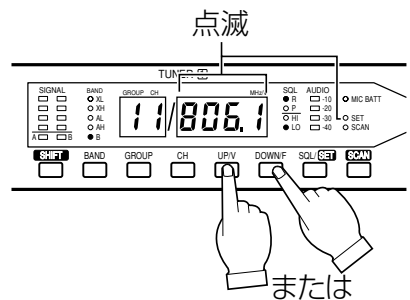
周波数表示が点滅し、周波数変更状態になります。バンド表示は、システムバンド単独使用となります。それに伴い、グループとチャンネルも、表示している周波数に対応するものに変わる場合があります。



### 2 周波数を上げる場合は [UP/V] スイッチを、下げる場合は [DOWN/F] スイッチを押す

周波数が0.125 MHzずつ変化します。

- 表示上は上位4ケタのため、小数点以下から変化します。それに伴い、グループとチャンネルも、設定されたバンド内でその周波数に対応するグループとチャンネルに変わります。
- バンド内の最大周波数のときに [UP/V] スイッチを押すと、最小周波数に戻ります。また、最小周波数のときに [DOWN/F] スイッチを押すと、最大周波数に戻ります。
- 他の変更を行う場合は、該当するスイッチを押します。



## ● スケルチを変更する

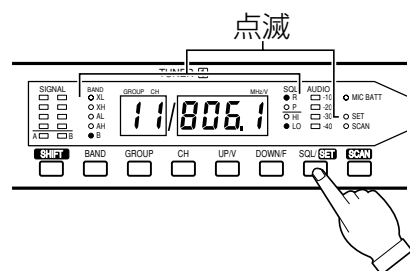
スケルチ設定は、特定周波数を含まない電波を回避する「トーンスケルチ」と、受信感度を設定する「レベルスケルチ」を組み合わせることができます。詳しくは、「スケルチ設定の目安」(23ページ)をお読みください。



- ワイヤレスマイクの送信がOFFで、なおかつ本機のトーンスケルチ、レベルスケルチが共に解除の場合、過大なノイズが出力します。ワイヤレスマイクの電源を切ったり、乾電池を抜く際やスケルチ設定を変更する際には十分ご注意ください。

### 1 [SQL/SET] スイッチを押す

スケルチの表示灯が点滅し、スケルチ変更状態になります。

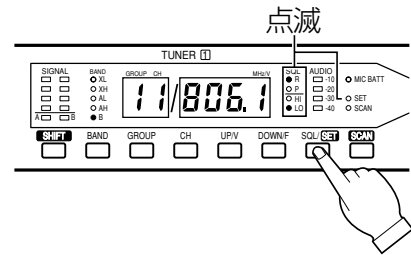


# バンド、グループ、チャンネル、周波数、スケルチを変更する<変更モード>

## 2 設定したい状態になるまで、[SQL/SET] スイッチを繰り返し押す

4つのスケルチ表示の組み合わせが切り替わります。トーンスケルチもレベルスケルチもすべて解除（消灯）に変更した場合は、音声出力に3秒間ミュートがかかり、すべてのスケルチ表示灯が短い点灯／長い消灯のくり返し点滅となります。

- 他の変更を行う場合は、該当するスイッチを押します。スケルチ全解除に変更し、音声出力ミュート中に他の項目の変更に移った場合は、音声が出力されるようになります。



### ● スケルチ設定の目安

スケルチを設定する際に参考にしてください。

#### <トーンスケルチの動作>

[R] に設定した場合には、RAMSAシリーズのワイヤレスマイクより、トーン周波数32.927 kHzを含んだ電波を受信し、音声を出します。

[R] + [P] に設定した場合には、上記に加えPanasonicシリーズのワイヤレスマイクより、トーン周波数32.768 kHzを含んだ電波を受信し、音声を出します。

解除した場合には、トーン周波数を含まない電波も受信し、音声を出します。

#### <レベルスケルチの動作>

[HI] に設定した場合には、弱～中程度の電波の受信時に、音声出力にミュートをかけます。比較的強い電波を受信したときのみ、音声を出します。

[LO] に設定した場合には、弱い電波の受信時に音声出力にミュートをかけます。比較的弱い電波を受信したときにも、音声を出します。

解除した場合には、電波が弱くなくても音声出力をミュートしません。電波が弱くなるにつれ、音声にノイズが混じり、次第にノイズが大きくなります。

※ミュートがかかるレベルは、使用環境により異なりますので、厳密な基準はありません。

#### <各スケルチ設定と到達距離の関係>

●：点灯（設定時） ○：消灯（解除時）

表示	R	○	○	○	●	●	●	●
	P	○	○	○	○	○	●	●
	HI	○	○	●	○	●	○	●
	LO	○	●	○	●	○	●	○
到達距離※1		—※2	最大	最大の約1/2	最大	最大の約1/2	最大	最大の約1/2

※1：到達距離については、「受信感度を設定する」（38ページ）をお読みください。

※2：雑音があっても受信を優先する場合や、不要な電波の所在を確認する場合以外は、スケルチをすべて解除しないでください。

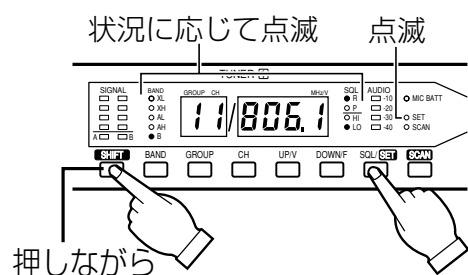
## チューナー動作に戻る（変更モードの終了）

各変更操作を終了し、チューナー動作に戻ります。

### 1 [SHIFT] スイッチを押しながら、[SQL/SET] スイッチを押す

変更モードが終了します（[SET] が消灯します）。

- 点滅していた各表示が点灯状態になり、変更した設定が反映されて、チューナー動作になります。
- 3秒以上操作を行わないと、自動的にチューナー動作に戻ります。その場合にも変更した設定は反映されます。



# 受信状況を確認する <スキャンモード>

ワイヤレスマイクシステムを運用する場所の電波環境を確認するために、設定されているバンド内の全グループと全チャンネルについて、自動的にチャンネルを切り替えながら、スケルチ設定により受信したグループおよびチャンネルを確認することができます。

電波がスケルチ設定条件を満たして受信されると、その周波数でスキャンが一時停止します。

スキャンの一時停止中には、設定を変更することができ、その設定をチューナー動作に反映することもできます。

スキャンには、「グループスキャン」と「チャンネルスキャン」の2種類があります。



- 電波の状況は刻々と変化するため、スキャン機能では一時的な状況しか捉えることができません。システム設置前の電波環境については、近隣のワイヤレスシステムの各設定を確認してください。
- スキャン機能を使用し、運用するワイヤレスマイクの周波数以外での一時停止が多い場合は、ほかのグループに設定を変更するなどの対策を行ってください。

## スキャンモードに切り替える



- スキャンモードに切り替わったら、グループスキャンを行うかチャンネルスキャンを行うかの選択操作は、3秒以内に行ってください。3秒以上操作しない状態が続くと、スキャンモードが終了してチューナー動作モードに戻ります。

### 1

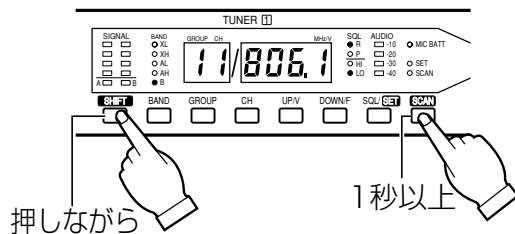
本機の電源を入れる（13ページ）

### 2

チューナー動作中にスキャンしたいチューナーの[SHIFT]スイッチを押しながら、[SCAN] スイッチを1秒以上押す

スキャンモード中であることを示すスキャンモード表示 [SCAN] が点滅します。

グループ、チャンネルの各表示のピリオドが点滅します。



- 多チャンネル使用の場合は、スキャンするグループ・チャンネルはシステムバンド内のみです。
- スキャンモードでは、電池電圧や電池残量を表示することはできません。電池電圧表示の状態ですキャンモードに切り替えた場合は、スキャンモードを終了すると、再び電池電圧表示となります。このとき、電池電圧・電池残量データを更新するため、表示されるまでに最大で1分程度の時間がかかる場合があります。
- トーンスケルチ、レベルスケルチの設定が共に解除の場合、常に受信状態となるため、チャンネルが切り替わるたびにスキャンは一時停止となります。
- スキャン中は音声は出力されません。スキャン一時停止中は音声は出力されますが、各項目を変更する瞬間（スケルチ変更ですべて解除にした場合のみ、スケルチ表示灯が点滅している3秒間）は、音声出力にミュートがかかります。



## グループ、チャンネルをスキャンする

スキャンモードに切り替わったら、3秒以内にグループスキャンを行うかチャンネルスキャンを行うかの選択操作をします。スキャンモードに移ってからスキャン開始までに3秒以上経過すると、チューナー動作に戻ってしまいます。

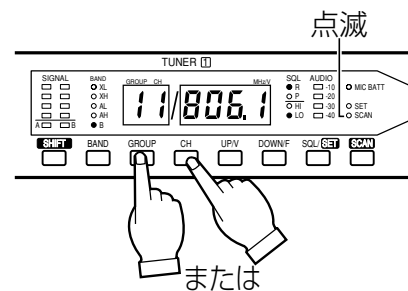
- グループスキャン : 設定されたバンド内の全グループについて、全チャンネルをスキャンします。スキャン中はグループ表示のピリオドが点滅します。
- チャンネルスキャン : 設定されたバンドとグループ内の全チャンネルについてスキャンします。スキャン中はチャンネル表示のピリオドが点滅します。

### 1

#### グループスキャンする場合は [GROUP] スイッチ、チャンネルスキャンする場合は [CH] スイッチを押す

設定されているバンド内で、グループスキャンの場合は最小番号のグループ・チャンネルから、チャンネルスキャンの場合は設定されているグループ内で最小番号のチャンネルからスキャンが開始されます。

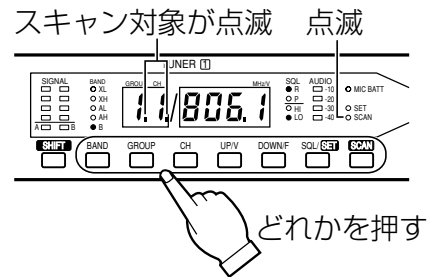
グループ表示とチャンネル表示の数字が自動的に切り替わり、対応する周波数が表示されます。スキャン中に電波を受信してスケルチ設定条件を満たすと、スキャンが一時停止されます。



操作

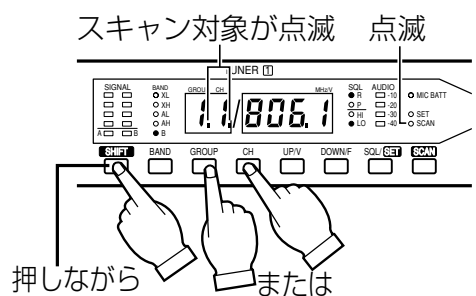
#### ●スキャンを手動で一時停止するには

- スキャン中のチューナー部で、[SHIFT] スイッチ以外のスイッチを押します。
- 一時停止中は、チューナー動作と同様に受信できます。



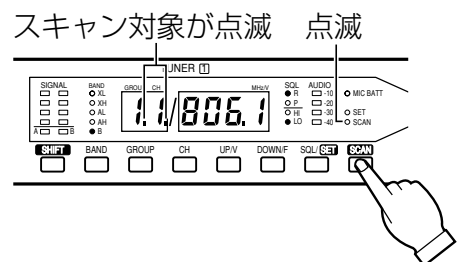
#### ●一時停止中にスキャン対象を変更するには

- グループスキャンに変更するには、[SHIFT] スイッチを押しながら [GROUP] スイッチを押します。
- チャンネルスキャンに変更するには、[SHIFT] スイッチを押しながら [CH] スイッチを押します。



#### ●スキャンを再開するには

- 一時停止中に [SCAN] スイッチを押します。表示されているチャンネルからスキャンが再開します。



# 受信状況を確認する<スキャンモード>

## ● 一時停止中に各種設定を変更する

スキャンを一時停止した状態で、バンド、グループ、チャンネル、周波数、スケルチの設定を変更することができます。

基本的な操作は、変更モードでの操作と同様です。「各種設定を変更する」(21~23ページ)をお読みください。ただし、スキャンモードでの変更は変更モードのように変更待ち状態にはならず、スイッチを押すとすぐに該当する設定が変更されます。また、周波数表示部は、多チャンネル使用時の各バンドのチャンネル数表示に切り替わらず、周波数表示のままです。

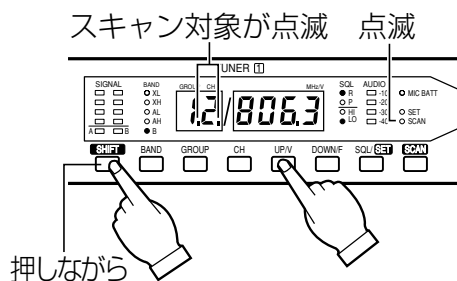
設定を変更し、スキャンを再開すると、変更内容が反映された状態でスキャンを行います。この設定は、スキャン中は有効です。チューナー動作にも反映させる場合は、「一時停止時の状態を反映して運用する」(26ページ)の操作を行ってください。

## ● 一時停止時の状態を反映して運用する

スキャンが一時停止したグループ・チャンネルの設定や、一時停止中に変更した設定をチューナー動作に反映してスキャンモードを終了します。

### 1 スキャンの一時停止状態で、[SHIFT] スイッチを押しながら [UP/V] スイッチを押す

スキャン一時停止中の点滅に加え、バンド、グループ、チャンネル、周波数、スケルチ表示が点滅します。

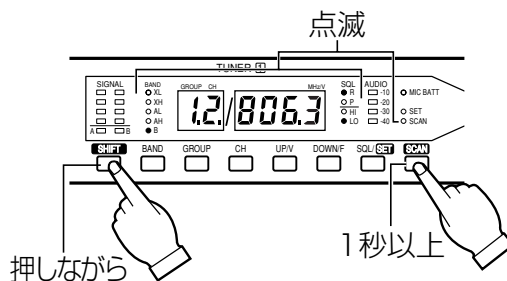


### 2 3秒以内に [SHIFT] スイッチを押しながら [SCAN] スイッチを1秒以上押す

スキャンの一時停止状態の設定を反映して、チューナー動作に戻ります。

スキャン表示は消灯します。

- 上記以外の操作を行うか、3秒以上操作を行わないと、スキャンの一時停止状態に戻ります。



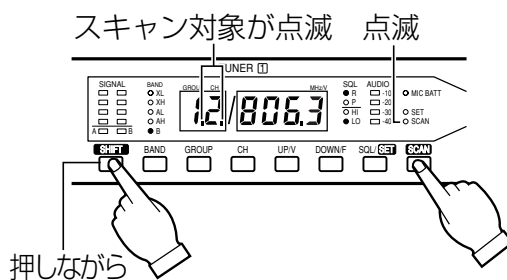
## チューナー動作に戻る (スキャンモードの終了)

スキャンを終了してチューナー動作に戻ります。この終了方法では、スキャンの一時停止時の状態や変更した設定はチューナー動作に反映されず、スキャンモードに切り替わる前の状態に戻ります。反映したい場合は、上記の「一時停止時の状態を反映して運用する」の操作を行ってください。

### 1 スキャンの一時停止状態で、[SHIFT] スイッチを押しながら [SCAN] スイッチを押す

スキャン表示が消灯します。

各表示はスキャンモードに切り替わる前の状態に戻ります。



# 設置・設定を始める前に

## はじめに

本章は、設置・設定作業を行う方を対象としています。

設置・設定作業を始める前に、必ず「設置上のご注意」(29ページ)をお読みください。

## 設置・設定手順

本機の設置・設定作業は、以下の手順にしたがって行ってください。

各手順で作業を正確に行うために、「確認のポイント」を参照してチェックを行ってください。

なお、本機に接続する各機器の取扱説明書もあわせてお読みください。

手順	作業内容	確認のポイント	参照ページ
1	<ul style="list-style-type: none"><li>システム構成品および台数の確認 (システム設計より)</li><li>付属品、工事部品などの確認</li><li>各機器の設置場所、設定内容の確認</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>不足品がないこと</li><li>近くにノイズ源がないこと</li><li>他のワイヤレスシステムの有無と設定内容の確認 (チャンネルプラン)</li></ul>	2、29、32~33、49~51など
2	<ul style="list-style-type: none"><li>アンテナなど本機以外の設置、接続</li><li>本機の設置、接続</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>設置条件を満たすこと</li><li>接続ミスがないこと</li></ul>	各機器の取扱説明書 29~35
3	システムバンドの設定	システムごとに接続するアンテナと合わせる	37
4	バンド、グループ、チャンネルの設定	ワイヤレスマイクも合わせる	20~23、37
5	スケルチの設定	ノイズ・混信がないこと	20~23、37
6	設定内容の確認 (必要に応じて変更)	電波環境を確認し、設定内容が運用に適していること	24~26
7	受信感度の設定	設置場所に受信できない場所 (デッドポイント) がないこと	38
8	最終動作確認	運用に支障がないか、各手順での確認のポイントを含めてチェックすること	関連ページ

不具合があった場合、原因の工程へ戻る

**すべてOKならば作業終了** 「システム設定一覧」(51ページ)に設定を記入し、保存してください。



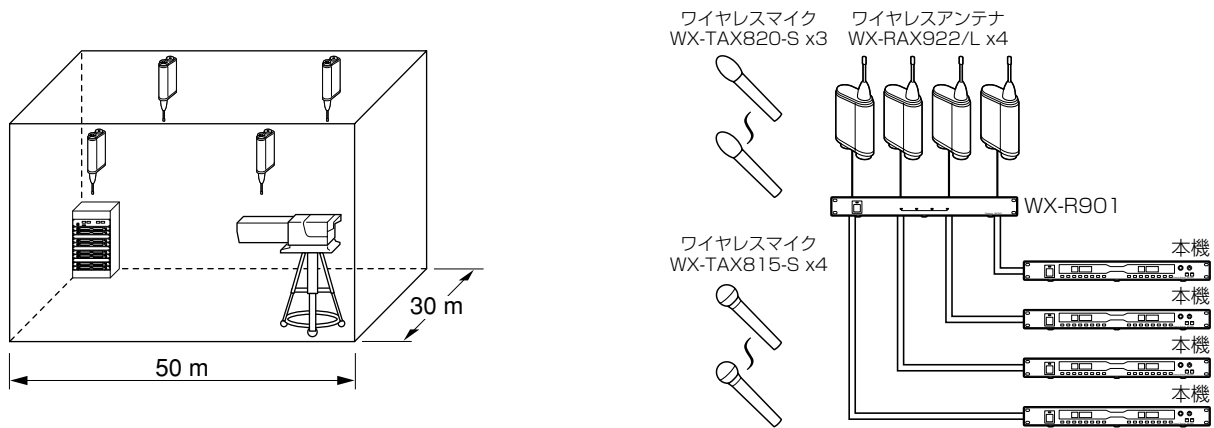
- 多チャンネル使用の場合は、バンドごとにシステムを組み、それぞれのシステムで上記手順3~8の作業を行ってください。

## システム設置例

ここで取り上げているシステム設置例は、ワイヤレスマイクシステムに関連する機器のみ記載しています（本機以外は別売品です）。実際の納入例には、AV機器などが含まれます。

### ●例1：放送スタジオ

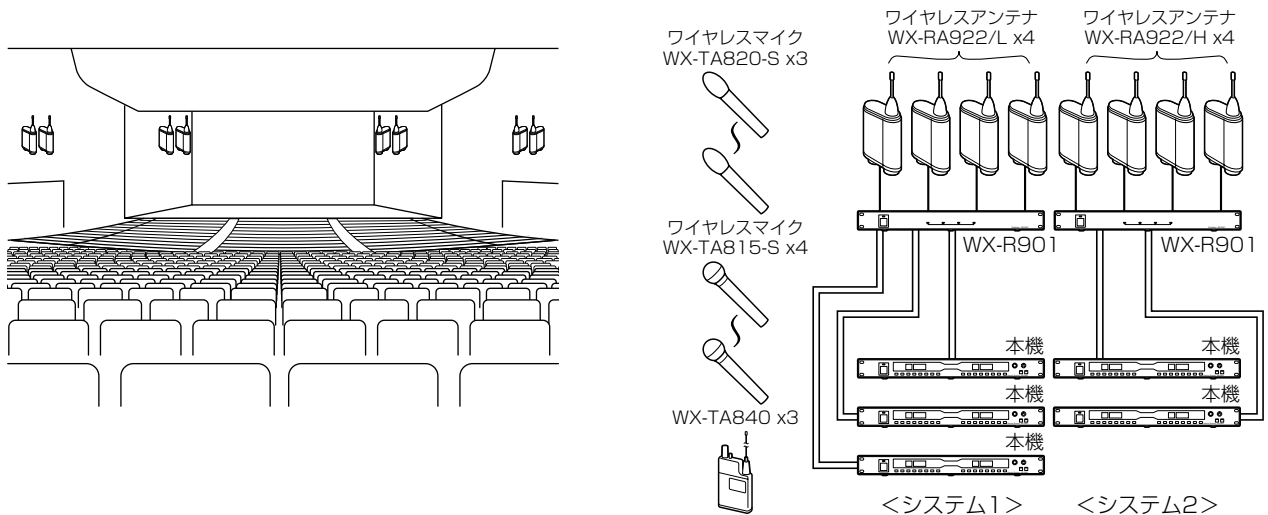
スタジオ面積：1500 m<sup>2</sup>    ワイヤレスマイク：7波    アンテナ数：4本  
 ワイヤレス混合分配器（WX-R901）：1台    本機：4台（1波は予備となります）



●主な設定内容    システムバンド：XL    グループ：XL7    使用チャンネル：1～7

### ●例2：多目的大ホール（多チャンネル使用）

観客席数：2500席    ワイヤレスマイク：10波    アンテナ数：8本（4本×2システム）  
 ワイヤレス混合分配器（WX-R901）：2台    本機：5台



●主な設定内容

<システム1>    システムバンド：AL    グループ：LH1    使用チャンネル：1～6  
 <システム2>    システムバンド：AH    グループ：LH1    使用チャンネル：7～A

# 設置のしかた

## 設置上のご注意

### ●工事は必ず販売店に依頼してください

工事を行う前に、「安全上のご注意」(6~8ページ)をよく読んでその指示にしたがってください。接続する機器の取扱説明書もあわせてお読みください。

### ●工事は電源を入れないで行ってください

工事は、本機の電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。また本機に接続されているミキサーやアンプなどの電源も切ってから行ってください。接続時にスピーカーから大きなノイズが出て、機器の破損につながります。

### ●以下の場所には設置しないでください

- ① 直射日光の当たる場所
- ② 振動の多い場所や衝撃が加わる場所
- ③ スピーカーやテレビ、磁石など、強い磁力を発生するものの近く
- ④ 結露しやすい場所、温度差の激しい場所、水気(湿気)の多い場所
- ⑤ 厨房など蒸気や油分の多い場所
- ⑥ 傾斜のある場所

### ●雑音源を避けてください

電灯線などの雑音源に同軸ケーブルや電源ケーブル、マイクケーブルを近づけると、音声信号にノイズが発生する場合があります。その場合は雑音源からできるだけ離すように配線するか、本機の位置を変えてください。

### ●横置き(水平)にしてください

縦置きや傾けて設置しないでください。故障の原因となります。

### ●ラックに取り付けるときは

- 本機をラックに取り付ける場合は、必ずEIA規格相当のラック(奥行き450 mm以上)をご使用ください。
- ラック内の温度が+45℃を超えないようにしてください。内部の部品に悪影響を与え、故障の原因となります。
- 本機は、できるだけラック下側に取り付けてください。

### ●アンテナは

- アンテナはダイバシティ方式で受信可能なように必ずA系、B系各1本以上で計2本以上、偶数本で使用してください。
- 確実に受信するために、アンテナはワイヤレスマイクから直視できる位置に設置してください。アンテナ付近に障害物があると、到達距離が短くなることがあります。また、十分なダイバシティ効果を得るために、2本のアンテナ間隔は41ページの表にしたがってください。
- モルタル壁へのねじによる直取り付けはしないでください。

### ●近くの妨害電波について

近くに別のワイヤレスシステムや、高周波を使う機器がないことを確認してください。やむをえず妨害電波の近くで使用する場合は、周波数が重複しないようにチャンネルプランを策定するか、またはワイヤレスマイクとアンテナの距離(到達距離)を短くしてご使用ください(到達距離は雑音源の大きさにより左右されます)。また、テレビ局や携帯電話基地局などから強い電波が出ている場合にも、到達距離が短くなることがあります。到達距離については、「受信感度設定の目安」(38ページ)をお読みください。

### ●電源について

- 本機は、コンセントや電源制御ユニットに容易に手が届く場所に設置してください。
- アース接続は必ず主電源プラグを主電源につなぐ前に行ってください。またアース接続を外す場合は、必ず主電源プラグを主電源から切り離してから行ってください。接続については、「接続のしかた」(34~35ページ)をお読みください。

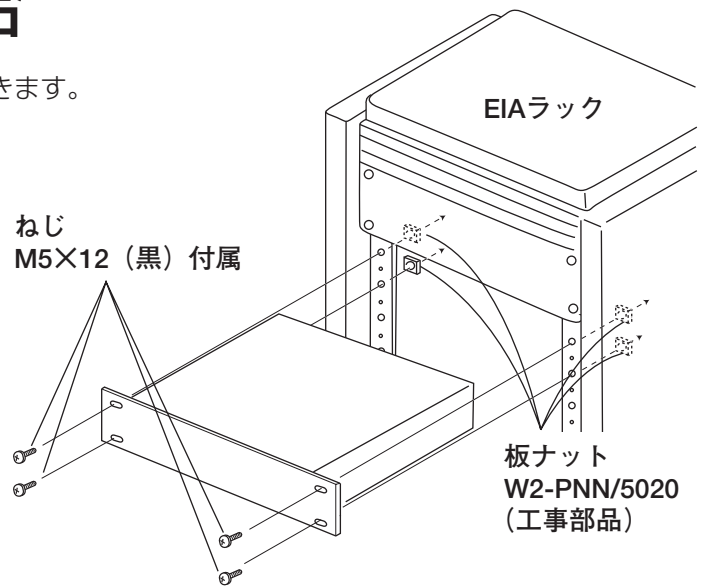
### ●接続について

- 本機に接続するアンテナは、WX-RAX922/L、WX-RAX922/H、WX-RA922/L、WX-RA922/H、WX-RB922、WX-RB910です。ワイヤレス混合分配器は、WX-R901です。(すべて別売品)
- 本機とアンテナを接続する同軸ケーブルは、50Ωのものを推奨しています。同軸ケーブルについては、「受信感度を設定する」(38ページ)をお読みください。
- 同軸ケーブルとコネクタの処理は、確実に行ってください。不完全な場合は、感度の低下や外来ノイズによる妨害が起こります。詳細は、「接続のしかた」(34~36ページ)をお読みください。

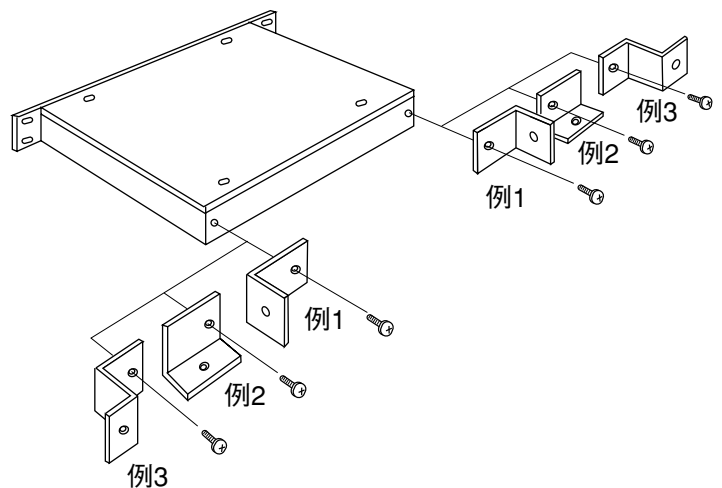
## ラックマウントの場合

本機をEIA規格相当のラックに取り付けることができます。

- ①M5×12（付属）のねじでEIAラックに取り付けます。取付ねじはゆるまないようにしっかりと締めつけてください。ラック側にタップが切られていない場合は、板ナット（W2-PNN/5020：別売品）を使用して取り付けます。



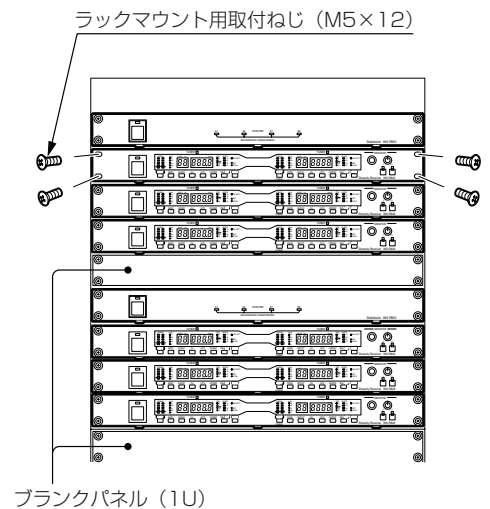
- ラックに収納しトラックなどで輸送する場合、振動衝撃を受け本機を破損する恐れがあります。補強対策としては、輸送用補強アングル（現地製作）でラック本体に固定して輸送してください。
- 補強アングルは鉄板（板厚2 mm 以上）を使用してください。
- アングル固定用のねじが必要です。  
例1：ラック側面に取り付ける場合  
例2：ラック底面に取り付ける場合  
例3：ラック後面に取り付ける場合



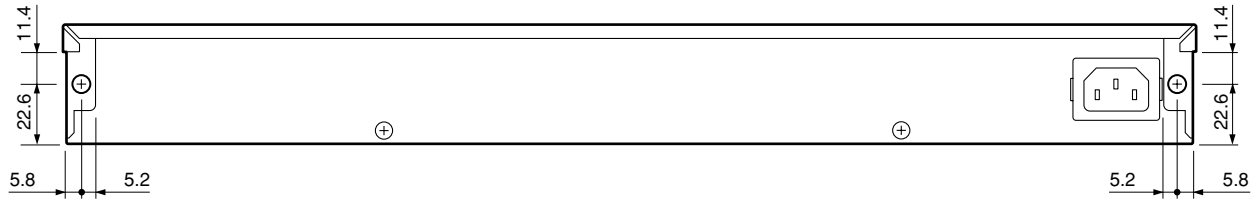
### ●ラックマウント時のご注意

ラックに取り付けて使用するときは、以下の内容をお守りください。

- 底面に付属のゴム足を取り付けないでください。
- 同じラックに本機を複数台取り付けるときは、右図のように本機3台につき、1Uのブランクパネルを1個取り付けてください。
- 本機と本機以外のワイヤレス受信機（WX-R821、WX-RX820、WX-R820、WX-R811、WX-R810：すべて別売品）を同じラックに取り付ける場合は、1台ごとに1Uのブランクパネルを1個取り付けてください。
- 同じラックにパワーアンプを取り付ける場合は、ノイズの影響を抑えるためにワイヤレス受信機との間に1Uのブランクパネルを1個取り付けてください。
- 他の機器を同じラックに取り付けると、機器によっては本機の熱の影響を受けることがあります。このときは本機から離してください。熱に弱い機器を同じラックに取り付けるときには、本機より下側に取り付けてください。
- ラックは通気性の良い場所に設置してください。ラック内に熱がこもるときはラック後面のふたを外し、かつ、ラック後面から壁まで10 cm以上離すなどの換気対策を行ったり、ラックにファンを取り付けるなどして、ラック内の温度が+45℃を超えないようにしてください。



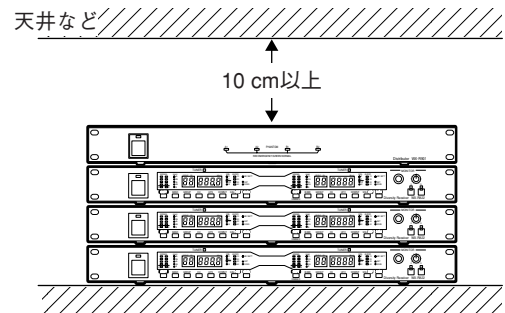
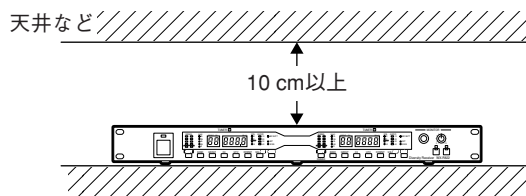
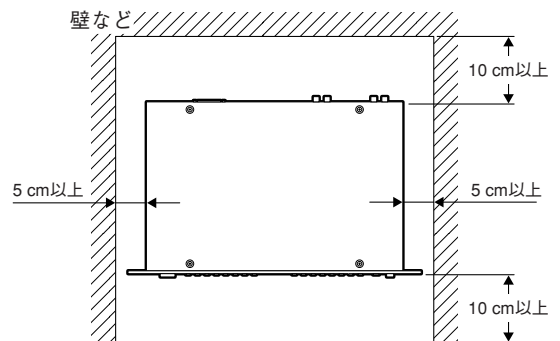
## ●本機の後面取付穴位置寸法図



## 据え置きの場合

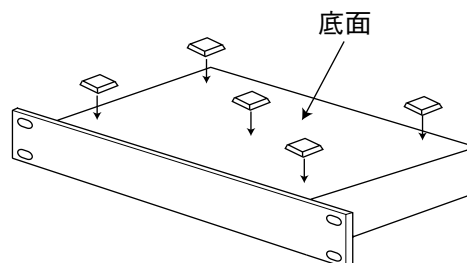
据え置きして使用するときは、以下の内容をお守りください。

- 収納棚、または壁や天井などの付近に設置する場合は、必ずゴム足を取り付け、本機の側面から5 cm以上離し、その他周囲からは10 cm以上離して設置してください（右図参照）
- 本機を積み重ねて使用する場合は、必ずゴム足を取り付け、下図のように天井側は10 cm以上離して設置してください。
- 本機を直接積み重ねる場合は、3段までにしてください。
- 本機の上に熱に弱い機器を積み重ねないでください。



## ● ゴム足の取り付けかた

付属のゴム足を本機底面に取り付けます。



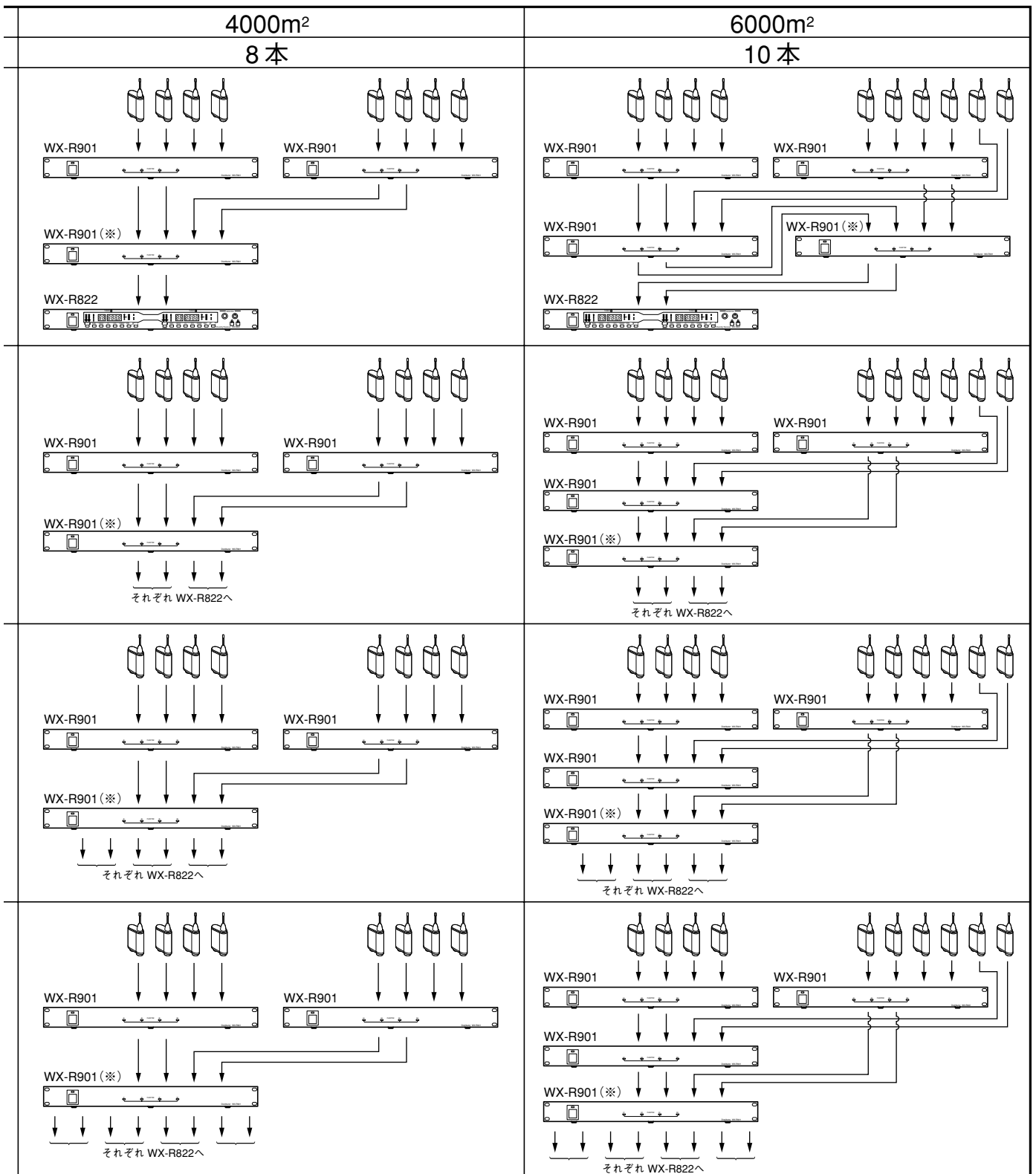
# システム構成例

使用面積 アンテナ数	1000m <sup>2</sup> 2本	2000m <sup>2</sup> 4本	3000m <sup>2</sup> 6本
1～2波受信 WX-R822 1台構成	<p>WX-RAX922/L WX-RAX922/H WX-RA922/L WX-RA922/H WX-RB922 WX-RB910</p> <p>システムにより いずれか (すべて別売品)</p> <p>WX-R822</p>	<p>WX-R901 (別売品)</p> <p>WX-R822</p>	<p>WX-R901</p> <p>WX-R822</p>
3～4波受信 WX-R822 2台構成	<p>WX-RAX922/L WX-RAX922/H WX-RA922/L WX-RA922/H WX-RB922 WX-RB910</p> <p>システムにより いずれか (すべて別売品)</p> <p>WX-R901</p> <p>それぞれ WX-R822へ</p>	<p>WX-R901</p> <p>それぞれ WX-R822へ</p>	<p>WX-R901</p> <p>それぞれ WX-R822へ</p>
5～6波受信 WX-R822 3台構成	<p>WX-RAX922/L WX-RAX922/H WX-RA922/L WX-RA922/H WX-RB922 WX-RB910</p> <p>システムにより いずれか (すべて別売品)</p> <p>WX-R901</p> <p>それぞれ WX-R822へ</p>	<p>WX-R901</p> <p>それぞれ WX-R822へ</p>	<p>WX-R901</p> <p>それぞれ WX-R822へ</p>
7波受信 WX-R822 4台構成	<p>WX-RAX922/L WX-RAX922/H WX-RA922/L WX-RA922/H WX-RB922 WX-RB910</p> <p>システムにより いずれか (すべて別売品)</p> <p>WX-R901</p> <p>それぞれ WX-R822へ</p>	<p>WX-R901</p> <p>それぞれ WX-R822へ</p>	<p>WX-R901</p> <p>それぞれ WX-R822へ</p>

●アンテナは、本機のシステムバンドの設定と合わせてお使いください。

システムバンド	XL	XH	AL	AH	B
アンテナ品番	WX-RAX922/L	WX-RAX922/H	WX-RA922/L	WX-RA922/H	WX-RB922またはWX-RB910





- ローカル入出力コネクタは、WX-R822→WX-R822→WX-R901→WX-R901間を同軸ケーブルで直列に接続していきます。ただし、アンテナが直接接続されていないWX-R901（図中の※印）のローカル入出力コネクタには接続する必要はありません。
- アンテナを10本より多く設置しても受信状況は良くなりません。（接続ロスが多くなるため）

# 接続のしかた

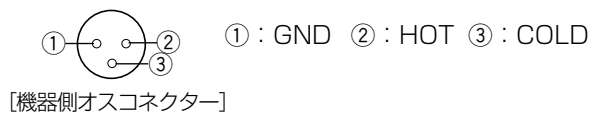
## 接続について

- 多チャンネル使用時には、バンドごとに接続したシステムの組み合わせとなります。
- 同軸ケーブルによる高周波信号の通過損失は、アンテナから受信機（または分配器）までの合計で8 dB以内（260 MHzにて）としてください。同軸ケーブルを中継する場合、1中継あたりの通過損失は約1 dBです。
- 同軸ケーブルの変換や中継を行う場合、必ずBNCコネクタやNコネクタなどの高周波用コネクタを使用してください。コネクタを使用せず同軸ケーブルを直接接続すると、受信感度の大幅な低下や混信、ノイズの発生などが起こることがあります。
- 同軸ケーブルを中継する場合は、ケーブル長の最大が1中継あたり10 %短くなります。詳しくは、「受信感度設定の目安」（38ページ）をお読みください。
- インピーダンスが50 Ωの同軸ケーブルを推奨します。（75 Ωの同軸ケーブルでも使用可能です。）
- BNCコネクタと同軸ケーブルは、同じインピーダンスのものを使用してください。
- 低損失タイプの同軸ケーブルを使用する場合は、専用コネクタになる場合がありますので、ご使用になるケーブルのメーカーにお問い合わせください。
- BNCコネクタと同軸ケーブルの処理は、専用圧着工具などを使用し、確実に行ってください。
- 外径の大きい同軸ケーブルは機器への接続が困難なため、下図のように同軸ケーブルを変換してください。

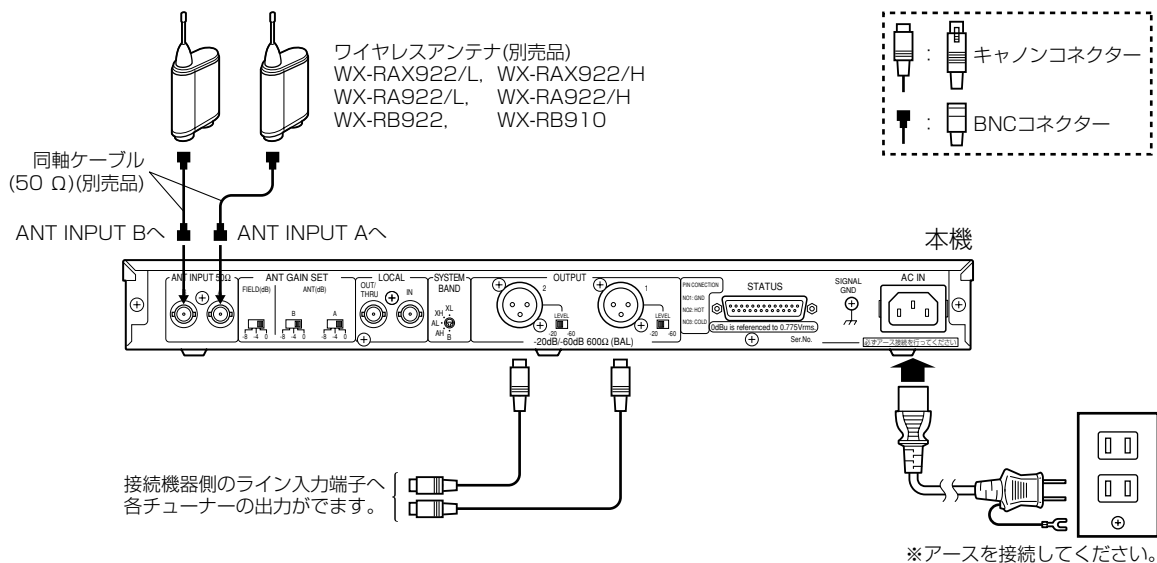


□ : Nコネクタ、▣ : 専用Nコネクタ、◻ : BNCコネクタ

- アウトプットコネクタ [OUTPUT 1、2] (キャノンコネクタを接続) の仕様は以下のとおりです。



## 2波受信の場合（アンテナ数2本の例）



アンテナを増設する場合は、ワイヤレス混合分配器 (WX-R901 : 別売品) をお使いください。WX-R901 1台につき、A系2本、B系2本のアンテナを接続できます。接続のしかたは、「3～7波受信の場合」（35ページ）をお読みください。



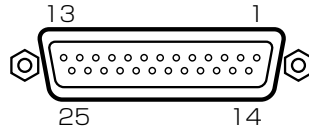
# 表示用出力コネクタの仕様について

本機背面の表示用出力コネクタ [STATUS] の仕様は、以下のとおりです。

チューナー1、2の受信状態の他、電池残量状態なども出力されます。

9番～13番ピン、22～25番ピンは、調整確認やメンテナンス用ですので、使用しないでください。

## ● コネクタピン配置



## ● 出力一覧

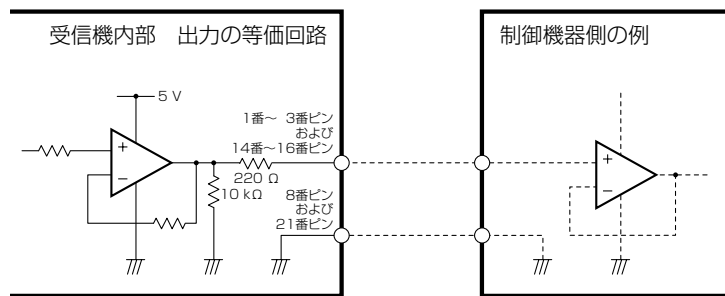
チューナー1 ピン番号	チューナー2 ピン番号	出力項目	出力内容
1	14	A系 受信レベル	A系受信レベルを約1～4 Vの範囲で出力
2	15	B系 受信レベル	B系受信レベルを約1～4 Vの範囲で出力
3	16	音声出力レベル	音声出力レベルを約1～4 Vの範囲で出力
4	17	ダイバシティA系選択	ダイバシティ方式によりA系を選択時にHiレベルを出力*
5	18	ダイバシティB系選択	ダイバシティ方式によりB系を選択時にHiレベルを出力*
6	19	電池残量1	マイク電池残量表示が橙色のときにHiレベルを出力
7	20	電池残量2	マイク電池残量表示が赤色のときにHiレベルを出力
8	21	GND	出力系統のGND

\* ダイバシティ方式で、A系が選択されたときは4 (17) 番ピン、B系が選択されたときは5 (18) 番ピンに、Hiレベルが出力されますが、前面パネルのダイバシティ表示と異なり、A系B系の受信レベルが同等の場合は、4 (17) 番ピンと5 (18) 番ピンは共にHiレベルを出力します。

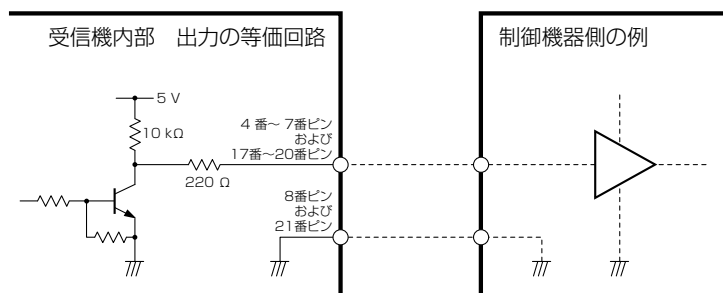
## ● 各出力の等価回路

各出力端子 (1番～7番ピン、14番～20番ピン) は、電圧：5 V以下、電流：10 mA以下となるようにしてください。

● 1番～3番ピンと8番ピンおよび14番～16番ピンと21番ピンは以下のような出力になっています。



● 4番～7番ピンと8番ピンおよび17番～20番ピンと21番ピンは以下のような出力になっています。



# 設定のしかた

## 設定上のご注意

- 設定は、策定したチャンネルプランにしたがって行ってください。その際、周波数表（49～51ページ）をお読みください。
- 多チャンネル使用の場合はバンドごとにシステムを組み、同一システム内は同じバンド設定にしてください。
- 本機のチューナーとワイヤレスマイクは、同じ周波数（バンド、グループ、チャンネル）に設定してください。
- 同時に使用するワイヤレスマイクは、すべて同じグループとし、そのグループの中ですべて異なるチャンネルに設定してください。
- ワイヤレスマイクを割り当てないチューナーは、音声モニター用としてお使いいただけます。使用しない場合、システムバンド以外は工場出荷状態のままにしてください。

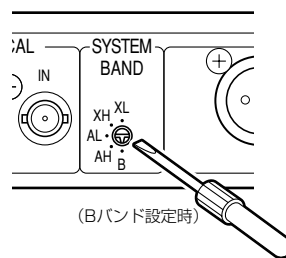
## システムバンドを設定する

アンテナのバンドと合わせ、XL/XH/AL/AH/Bバンドの中から1つ選択し、設定します（工場出荷時はBバンドに設定されています）。システムバンドは、本機の電源を切った状態で設定してください。バンド単独使用時はそのバンド、多チャンネル使用時はバンドごとにシステムを組み、そのバンドに設定します。

### 1 付属の専用小型ドライバーで、本機背面のシステムバンド設定スイッチを設定する

電源を入れると、各チューナー部で、システムバンドに設定されたバンドが緑色に表示されます。

システムバンドの設定により、バンド、グループ、チャンネルの設定も変わります。それぞれ設定してください。



重要

- バンド表記のない位置にスイッチを設定しても無効です。必ずバンドが表示されている5つの目盛りのいずれかに設定してください。設定が無効の場合は、グループ・チャンネル・周波数の表示がすべて[ \_ ]となり、その他の表示灯はすべて消灯します。
- システムバンドの設定を変更すると、グループやチャンネルの設定もそれに伴って変更されるため、ワイヤレスマイクの電波を受信できなくなることがあります。運用中にはシステムバンドの変更を行わないでください。
- 付属の専用小型ドライバーは、システムバンド設定スイッチの設定以外には使用しないでください。

## バンド、グループ、チャンネル、スケルチを設定する

チャンネルプランにしたがって、チューナーごとに前面パネルのスイッチを操作して各種設定を行います。工場出荷状態（初期状態）は、以下のとおりです。

項目	工場出荷状態	項目	工場出荷状態
バンド	B	チャンネル	1
グループ	1	スケルチ	[R] [LO]

ワイヤレスマイクの同時使用数が7本（7波）以下の場合、システムバンドに設定したバンドを単独で使用します。周波数表の「バンド単独使用時のグループ」の欄を参照してください。

ワイヤレスマイクの同時使用数が8本（8波）以上の場合、多チャンネル設定となります。周波数表の「多チャンネル使用時のグループ」の欄をお読みのうえ、バンドごとにシステムを組んで設定を行ってください。

各設定方法は、「バンド、グループ、チャンネル、周波数、スケルチを変更する<変更モード>」（20～23ページ）をお読みください。

## 受信感度を設定する

本機背面のフィールド感度切替スイッチ [ANT GAIN SET FIELD(dB)] とアンテナ感度切替スイッチ [ANT GAIN SET ANT(dB)] を設定することにより、アンテナの受信感度をリモート制御することができます。

受信感度は、ワイヤレスマイクシステムを使用する場所と、アンテナから本機またはアンテナからワイヤレス混合分配器 (WX-R901:別売品) までの同軸ケーブルの長さにより設定する必要があります。

受信感度を必要以上に高く設定すると、別のワイヤレスシステムや雑音源からのノイズの混信、複数のワイヤレスマイクを使用することで起こる混信の原因となります。以下の表を設定の目安としてお使いいただき、音切れする場合は受信感度が高くなるように調整してください。また、受信感度には他にも様々な要因が影響します。必ず動作確認を行い、適正な状態に設定してください。



- アンテナの受信感度のリモート制御は、本機またはワイヤレス混合分配器 (WX-R901) に直接接続したアンテナ (WX-RAX922/L、WX-RAX922/H、WX-RA922/L、WX-RA922/H、WX-RB922) に対して有効です。
- 本機と接続するアンテナが上記以外の場合は、アンテナの受信感度のリモート制御はできません。
- 設置環境やシステム構成により、リモート制御の信号がノイズとなることがあります。その場合は、フィールド感度切替スイッチ、アンテナ感度切替スイッチは、ともに [0] dB の位置に設定してください。リモート制御の信号をカットすることができます。上記以外のアンテナをワイヤレス混合分配器 (WX-R901) に接続する場合も同様です。WX-R901 の取扱説明書をお読みください。
- アンテナを直接接続しない場合、フィールド感度切替スイッチ、アンテナ感度切替スイッチは、すべて [0] dB の位置に設定してください。

### ● 受信感度設定の目安 (レベルスケルチが [LO] の場合)

ケーブル長*1	同軸ケーブル 推奨品番 (外径) *印は75Ω	使用場所 (参考)	屋外	ホール	スタジオ	会議室	宴会場
		到達距離*2	最大	30 m	20 m	15 m	15 m
		最大	90 m	30 m	20 m	15 m	15 m
		到達距離*2	}	}	}	}	}
		最小	10 m	3 m	2 m	2 m	2 m
50 m以内	5D-2V (φ 7.3 mm)	[FIELD(dB)] スイッチ	0 dB	-4 dB	-4 dB	-8 dB	-8 dB
		[ANT(dB)] スイッチ	0 dB	-4 dB	-4 dB	-8 dB	-8 dB
80 m以内	5D-FB (φ 7.6 mm)	[FIELD(dB)] スイッチ	0 dB	-4 dB	-4 dB	-8 dB	-8 dB
		[ANT(dB)] スイッチ	0 dB	-4 dB	-4 dB	-8 dB	-8 dB
140 m以内	8D-SFA (φ 11.1 mm)	[FIELD(dB)] スイッチ	0 dB	-4 dB	-4 dB	-8 dB	-8 dB
		[ANT(dB)] スイッチ	0 dB	-4 dB	-4 dB	-4 dB	-4 dB
170 m以内	10D-SFA (φ 13.0 mm)	[FIELD(dB)] スイッチ	0 dB	-4 dB	-4 dB	-8 dB	-8 dB
		[ANT(dB)] スイッチ	0 dB	-4 dB	-4 dB	-4 dB	-4 dB
220 m以内	12D-SFA (φ 15.6 mm)	[FIELD(dB)] スイッチ	0 dB	-4 dB	-4 dB	-8 dB	-8 dB
		[ANT(dB)] スイッチ	0 dB	-4 dB	-4 dB	-4 dB	-4 dB
50 m以内	5C-2V* (φ 7.4 mm)	[FIELD(dB)] スイッチ	0 dB	-4 dB	-4 dB	-8 dB	-8 dB
		[ANT(dB)] スイッチ	0 dB	-4 dB	-4 dB	-8 dB	-8 dB
80 m以内	7C-FV* (φ 10.4 mm)	[FIELD(dB)] スイッチ	0 dB	-4 dB	-4 dB	-8 dB	-8 dB
		[ANT(dB)] スイッチ	0 dB	-4 dB	-4 dB	-8 dB	-8 dB

※1：同軸ケーブルを中継する場合は、中継による通過損失のため、ケーブル長が表中の値より、1中継あたり10%短くなります。

※2：到達距離とは、電波を安定して受信可能なアンテナからワイヤレスマイクまでの距離です。レベルスケルチが [HI] の場合、到達距離の最大値は上表の約半分になります。

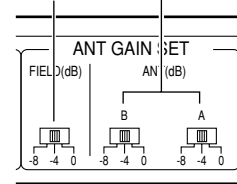
## ● 音切れする場合の調整のしかた

動作確認で音声途切れしてしまった場合は、まずアンテナ感度切替スイッチをA系B系とも1つ上げ、音声を確認します。アンテナ感度切替スイッチを [0] dBまで上げて音切れが解消しない場合は、フィールド感度切替スイッチを1つ上げて、アンテナ感度切替スイッチは、[-8] dB（最小の位置）の設定から確認します。

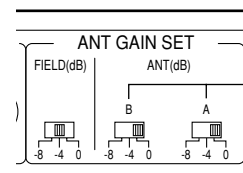
以下の手順の図は、使用する同軸ケーブルの長さが50 m以内（5D-2V）、必要な到達距離が20 mで、「受信感度設定の目安」（38ページ）の表で使用場所がスタジオの場合を例としています。実際の調整は、使用場所と使用するケーブルに合わせて行ってください。

**1** 「受信感度設定の目安」を元に、背面のフィールド感度切替スイッチ、アンテナ感度切替スイッチを、それぞれ [-4] dBに設定し、音声を確認する

フィールド感度切替スイッチ    アンテナ感度切替スイッチ

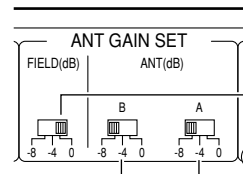


**2** 音切れする場合、アンテナ感度切替スイッチを、A系B系とも1つ上げて、音声を確認する



[0] dBに設定

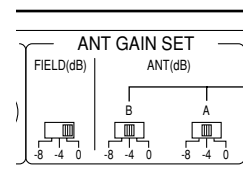
**3** 音切れが解消しない場合、フィールド感度切替スイッチを1つ上げ、アンテナ感度切替スイッチを両方とも最小の位置に設定して、音声を確認する



[0] dBに設定

[-8] dBに設定

**4** 音切れが解消しない場合、アンテナ感度切替スイッチを、両方とも1つ上げて、音声を確認する



[-4] dBに設定



● 感度切替スイッチがすべて [0] dBに設定されるまで、上記の手順を繰り返して調整することができますが、その場合、受信感度は最大となり、混信も発生しやすくなります。ご注意ください。音切れが解消しない場合は、アンテナの設置場所や設置方法、アンテナの [ATT] スイッチの設定、ワイヤレスマイクの送信出力レベルの設定なども確認してください。

● 本機やワイヤレス混合分配器（WX-R901）が複数台ある場合、直接アンテナを接続した機器の設定が有効となります。

## 各種設定を工場出荷状態に戻す

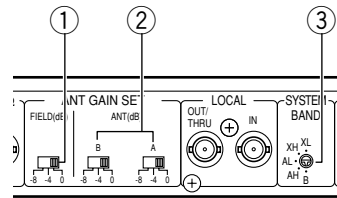
行った設定をチューナーごとにリセットして、工場出荷状態に戻すことができます。  
リセットされる項目と工場出荷状態は以下のとおりです。

項目	工場出荷状態	項目	工場出荷状態
バンド	B	スケルチ	[R] [LO]
グループ	1	表示灯輝度※	明るい
チャンネル	1	モニター出力※	1、2ともOFF
周波数表示	806.1		

注：※印の項目は、チューナー1ではリセットされません。

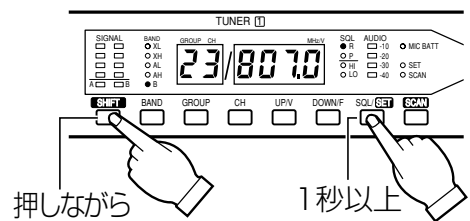
### 1 背面パネルの各スイッチを以下の設定にし、本機の電源を入れる

- ① フィールド感度切替スイッチ：[0] dB
  - ② A系・B系アンテナ感度切替スイッチ：[0] dB
  - ③ システムバンド設定スイッチ：[B]
- チューナー1をリセットする場合は、上記③のみ設定します。  
チューナー2をリセットする場合は、上記①～③のすべてを設定してください。



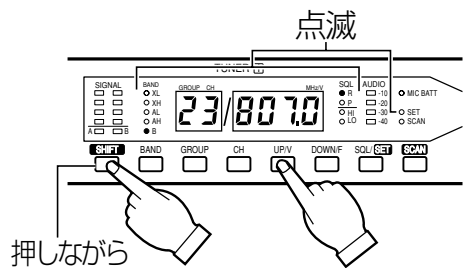
### 2 リセットしたい方のチューナーの [SHIFT] スイッチを押しながら [SQL/SET] スイッチを1秒以上押す

変更モード中であることを示す [SET] 表示が点滅します。  
同時に、バンド、グループ、チャンネル、周波数、スケルチの各表示が点滅します。



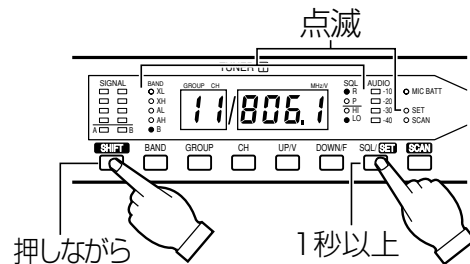
### 3 3秒以内に [SHIFT] スイッチを押しながら [UP/V] スイッチを押す

リセット待機状態となります。  
リセットされる内容が表示され、点滅します。  
●上記以外の操作を行うと変更モードになります。  
また、3秒以上操作を行わないと、リセットされずにチューナー動作になります。



### 4 3秒以内に [SHIFT] スイッチを押しながら、[SQL/SET] スイッチを1秒以上押す

変更モード表示の点滅が消え、設定したチューナーが工場出荷状態となります。  
●上記以外の操作を行うか、3秒以上操作を行わないと変更モードになります。



- 背面のレベル切替スイッチは [-20] dB、フィールド感度切替スイッチは [0] dB、アンテナ感度切替スイッチは [0] dBが工場出荷状態です。



# アンテナ設置の考えかた

ここでは、ワイヤレスマイクシステムを設置する環境条件により、アンテナの本数や設置場所をどうすればよいか、説明します。実際には机上の計算通りでは、うまく電波を受信できない場合もありますので、必ず動作確認を行い、デッドポイントがないように設置してください。

## ●基本的な考え方

- ① 本機の受信感度設定を決定する
- ② ①の設定により、アンテナ1本あたりの受信エリアを求める
- ③ システム設置場所の面積や障害物の有無、天井高により、アンテナ本数と設置場所を決める



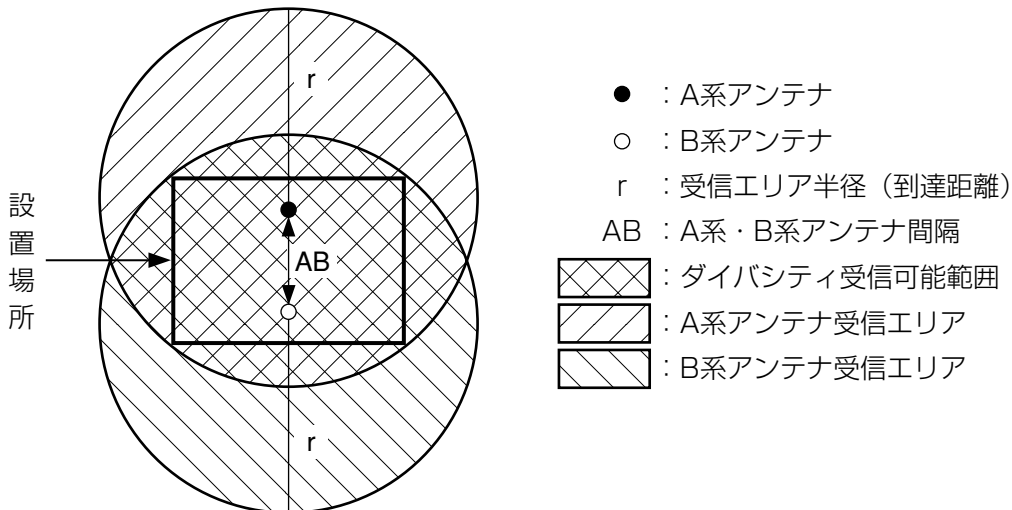
- アンテナは、A系・B系で1本ずつ、合計2本以上の偶数本必要です。
- アンテナの本数は、ワイヤレスマイクの本数ではなく、設置場所の面積や障害物の有無、天井高などの空間の状況により決まります。
- アンテナは垂直に設置してください。水平に設置すると受信感度が6 dB～12 dB低下します。

- ① 「受信感度を設定する」(38ページ)の「受信感度設定の目安」の表から、使用場所の種類、同軸ケーブルの種類と長さからフィールド感度とアンテナ感度の設定を選択します。
- ② 上記の設定値から、アンテナ1本あたりの受信エリアを下表より求めます。ただし、下表の受信エリア半径(到達距離)は、レベルスケルチが[L0]の場合です。[HI]の場合は受信エリア半径は約半分になります。また、受信エリア半径は同軸ケーブルの種類や長さによって変わりますので、下表は参考としてお使いください。

感度設定		屋外使用時		屋内使用時	
フィールド感度切替スイッチ	アンテナ感度切替スイッチ	A系・B系アンテナ間隔	受信エリア半径(到達距離)	A系・B系アンテナ間隔	受信エリア半径(到達距離)
0 dB	0 dB	5 m～60 m以内	90 m	2 m～35 m以内	50 m
	-4 dB	5 m～55 m以内	80 m	2 m～30 m以内	45 m
	-8 dB	5 m～40 m以内	60 m	2 m～25 m以内	35 m
-4 dB	0 dB	2 m～40 m以内	60 m	2 m～22 m以内	30 m
	-4 dB	2 m～30 m以内	50 m	2 m～15 m以内	25 m
	-8 dB	2 m～25 m以内	40 m	2 m～15 m以内	20 m
-8 dB	0 dB	2 m～25 m以内	40 m	2 m～15 m以内	20 m
	-4 dB	2 m～22 m以内	35 m	2 m～10 m以内	18 m
	-8 dB	2 m～20 m以内	25 m	2 m～8 m以内	15 m

③設置場所の平面図（または見取り図）などから、ダイバシティ受信可能範囲が設置場所の面積をすべてカバーするアンテナ位置を決定します。

<アンテナ設置例>

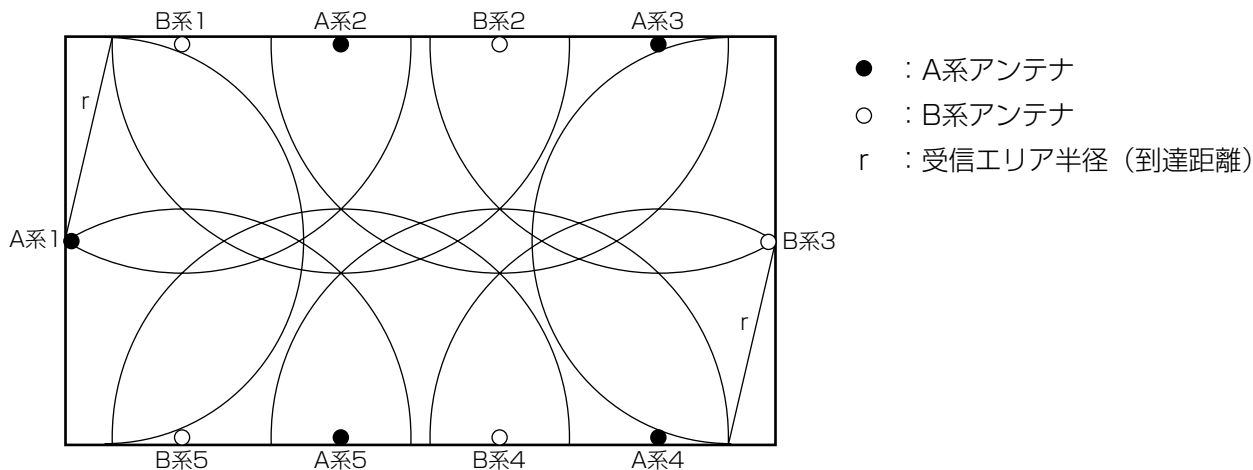


●チェックポイント

- 設置場所全体が、ダイバシティ受信可能エリアの中に入っていますか？
- A系・B系アンテナの距離は近すぎないですか？前ページの表に記載の「A系・B系アンテナ間隔」にしたがって設置してください。
- アンテナとワイヤレスマイクの間には障害物はありませんか？アンテナは設置物の陰にならない場所に設置していますか？

●A系・B系アンテナを複数設置する場合

下図のように交互に設置します。下図の例では、A系1、B系1、A系2、B系2のアンテナを1台目のワイヤレス混合分配器に、A系3、B系3、A系4、B系4のアンテナを2台目のワイヤレス混合分配器に、A系5、B系5のアンテナを3台目のワイヤレス混合分配器に接続します。



# 故障と思われましたら

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

これらの処置をしても直らないときや、この表以外の症状のときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●電源プラグがACコンセントに確実に接続されていますか？</li> <li>➔接続されているか、確認してください。</li> </ul>	34~35
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●付属の電源コードが、本機に確実に差し込まれていますか？</li> <li>➔差し込まれているか、確認してください。</li> </ul>	34~35
受信がまったくできない (音声が出力されない、 受信レベル表示が反応しない)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ワイヤレスマイクの電源（電池）は入っていますか？</li> <li>➔ワイヤレスマイクに電池を入れ送信状態にしてください。</li> </ul>	ワイヤレス マイク説明書
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ワイヤレスマイクが送信する周波数と受信機の受信する周波数の設定は合っていますか？</li> <li>➔バンド、グループ、チャンネルの設定をワイヤレスマイクと同じにしてください。多チャンネル使用の場合は、周波数表を参照してください。</li> </ul>	37 49~51
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●接続しているアンテナは本機で設定しているシステムバンドと同じバンドのものですか？</li> <li>➔設定しているシステムバンドと同じバンドのアンテナをご使用ください。</li> </ul>	37および アンテナ 説明書
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アンテナから受信機までの接続を間違えていませんか？</li> <li>➔接続を確認してください。</li> </ul>	34~35
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●BNCコネクタ処理部の接続不良、同軸ケーブルの断線はありませんか？</li> <li>➔BNCコネクタ、同軸ケーブルを確認してください。</li> </ul>	34~35および アンテナ説明書
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●システムの中に、電源がOFFになっている本機やワイヤレス混合分配器はありませんか？</li> <li>➔運用中は、システムのすべての機器の電源をONにしてください。</li> </ul>	13および 各機器の説明書

必要  
な  
と  
き

# 故障と思われましたら

症 状	原 因 ・ 対 策	参 照 ペ ー ジ
時々受信できなくなる、 またはノイズが発生する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 近くにノイズ源となる機器がありませんか？</li> <li>➡ ワイヤレス機器および同軸ケーブルから遠ざけてください。</li> </ul>	8
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本機またはワイヤレス混合分配器間のローカル入出力コネクターは、正しく接続されていますか？</li> <li>➡ 接続を確認してください。</li> </ul>	34~35
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● システムの中に、電源がOFFになっているワイヤレス受信機はありませんか？</li> <li>➡ 運用中は、システムのすべての機器の電源をONにしてください。</li> </ul>	13および 各機器の説明書
混信する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ワイヤレスマイクの送信周波数が重複していませんか？</li> <li>➡ ワイヤレスマイクはすべて異なる周波数（チャンネル）に設定してください。</li> </ul>	49~51および ワイヤレス マイク説明書
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 複数のグループを同時に使用していませんか？</li> <li>➡ 同時に使用するワイヤレスマイクのグループは、1つにしてください。</li> </ul>	20~23、 49~51
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 複数のワイヤレスマイクを近づけて使用していませんか？</li> <li>➡ 距離を離してご使用ください。</li> </ul>	8
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ワイヤレスマイクをアンテナに近づけて使用していませんか？</li> <li>➡ 距離を離してご使用ください。</li> </ul>	8、38
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● フィールド感度切替スイッチ、アンテナ感度切替スイッチの設定を間違えていませんか？</li> <li>➡ 設定を確認してください。</li> </ul>	38~39
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ワイヤレスマイクの送信出力レベルが [10 mW] になっていませんか？</li> <li>➡ [2 mW] または [5 mW] へ切り替えてください。</li> </ul>	ワイヤレス マイク説明書
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アンテナの [ATT] スイッチが [0 dB] になっていませんか？</li> <li>➡ [10 dB] に切り替えてください。</li> </ul>	アンテナ 説明書

# 故障と思われましたら

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
混信する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 近くで別のワイヤレスシステムを使用していると、混信する場合があります。</li> <li>➔ 別のワイヤレスシステムの設定を確認し、使用周波数が重複しないように本システムのグループまたはチャンネルの設定を変更してください。</li> </ul>	20~23、49~51
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 近くに高周波を使う機器や雑音源があると、混信する場合があります。</li> <li>➔ ワイヤレスマイクとアンテナの距離を短くしてご使用ください。</li> </ul>	38
音声が出ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>● トーンスケルチの設定を間違えていませんか？</li> <li>➔ 設定を確認してください。</li> </ul>	22~23
ノイズが止まらない	<ul style="list-style-type: none"> <li>● トーンスケルチ、レベルスケルチが共に解除の設定になっていませんか？または、レベルスケルチが [LO] に設定されていませんか？</li> <li>➔ 設定を確認してください。</li> </ul>	22~23
音切れする	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アンテナが直接接続されているワイヤレス混合分配器のローカル入出力コネクタは、正しく接続されていますか？</li> <li>➔ 接続を確認してください。</li> </ul>	34~35
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● フィールド感度切替スイッチ、アンテナ感度切替スイッチの設定を間違えていませんか？</li> <li>➔ 設定を確認してください。</li> </ul>	38~39
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ワイヤレスマイクの送信出力レベルが [2 mW] または [5 mW] になっていませんか？</li> <li>➔ [10 mW] に切り替えてください。</li> </ul>	ワイヤレスマイク説明書
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アンテナの [ATT] スイッチが [10 dB] になっていませんか？</li> <li>➔ [0 dB] へ切り替えてください。</li> </ul>	アンテナ説明書
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 接続しているアンテナは本機で設定しているシステムバンドと同じバンドのものですか？</li> <li>➔ 設定しているシステムバンドと同じバンドのアンテナをご使用ください。</li> </ul>	37およびアンテナ説明書

必要  
な  
と  
き

# 故障と思われましたら

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
<p>電池電圧・電池残量が表示されない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●電池電圧・電池残量表示対応のワイヤレスマイクを使用していますか？</li> <li>➔電池電圧・電池残量表示対応のワイヤレスマイクを使用してください。 ※ワイヤレスマイクの電源を入れた直後や受信状態が悪い場合は、表示されないことがあります。</li> </ul>	<p>16~17およびワイヤレスマイク説明書</p>
<p>変更モードでシステムバンドが切り替わらない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●トーンスケルチが設定されていますか？</li> <li>➔トーンスケルチを含んだスケルチ設定にしてください。</li> </ul>	<p>16~17、20~23</p>
<p>変更モードでチャンネルが切り替わらない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●変更モードで切り替えられるのは、多チャンネル使用時のバンドのみです。</li> <li>➔システムバンドは、背面パネルのシステムバンド切替スイッチで切り替えてください。</li> </ul>	<p>37</p>
<p>変更モードでチャンネルが切り替わらない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● [6] グループに設定されていませんか？</li> <li>➔各バンドの [6] グループは1チャンネルのみです（変更できるチャンネルは、設定されたバンドとグループ内のみ）。他の周波数に変更するには先にグループを変更するか、周波数変更の操作を行ってください。</li> </ul>	<p>20~23</p>
<p>スキャンモードで再スキャンを実行しても一時停止状態になる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●トーンスケルチ、レベルスケルチが共に解除の設定になっていませんか？</li> <li>➔スケルチが解除されていると、正しくスキャンモードを実行しても、周波数が変わるたびに一時停止します。スケルチの設定を変更してください。</li> </ul>	<p>20~23、24</p>
<p>変更モードまたはスキャンモードでスケルチを変更すると、音声が途切れることがある</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スケルチをすべて解除に変更した場合のみ、過大ノイズ対策のため、変更した時点から3秒間音声出力をミュートしています。</li> <li>➔3秒経過後は音声を出力します。また、3秒経過前にほかの設定の変更に移ったり、チューナー動作に戻ると、音声を出力するようになります。</li> </ul>	<p>20~23、24~26</p>
<p>電源を入れると表示灯がすべて点灯したり、周波数表示部にアルファベットが表示されて、チューナー動作にならない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前面パネルのスイッチを押しながら、電源を入れませんでしたか？</li> <li>➔電源を入れ直すと、チューナー動作になります。電源を入れるときは、電源スイッチ以外のスイッチを押さないでください。</li> </ul>	<p>13</p>

必要なとき

## 故障と思われましたら

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
表示が点滅しそれ以上操作ができない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●内部のPLL回路に異常がある場合にグループ、チャンネルの表示が点滅し操作ができなくなります。</li> <li>➔再度、電源を入れ直してください。それでも直らない場合はお買い上げの販売店に修理を依頼してください。</li> </ul>	—
グループ、チャンネル表示部に「Er」表示される	<ul style="list-style-type: none"> <li>●内部のメモリに異常がある場合に「Er」が表示されます。</li> <li>➔再度、電源を入れ直してください。それでも直らない場合はお買い上げの販売店に修理を依頼してください。その際、周波数表示部に表示された数字（1～7）をお知らせください。</li> </ul>	—

電源コード・コネクター・電源プラグは、ときどき点検してください。

症 状	原 因 ・ 対 策
電源コードの被ふくが傷んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●電源コード・コネクター・電源プラグが傷んでいます。そのままの状態を使い続けると、感電や火災の原因になります。直ちに電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。</li> </ul>
使用中、電源コード・コネクター・電源プラグの一部が熱い	
使用中、電源コードを曲げたり伸ばしたりすると、温かくなったり、ぬるくなったりする	

必要  
な  
と  
き

# 仕様

## ●基本仕様

電源	AC 100 V 50 Hz/60 Hz
消費電力	13 W
使用温度範囲	-10℃~+50℃
寸法	幅 480 mm 高さ 44 mm (ゴム足含まず) 奥行き 280 mm (突起部含まず)
質量	約3.8 kg
仕上げ	前面パネル：黒色アルマイトヘアライン (マンセルN1近似色) 本体：黒色塗装鋼板 (マンセルN1近似色)

## ●入出力

受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン方式 (アンテナ+受信機)、トゥルー・ダイバシティ方式
局部発振方式	水晶発振制御PLLシンセサイザ方式
受信周波数 (アンテナ入力周波数)	172波中の2波を受信可能 (XL/XH/AL/AH/Bバンドのうち、同バンドの2波) 適合アンテナ XL : WX-RAX922/L (779.125 MHz~783.500 MHz) XH : WX-RAX922/H (783.625 MHz~787.875 MHz) AL : WX-RA922/L (797.125 MHz~801.500 MHz) AH : WX-RA922/H (801.625 MHz~805.875 MHz) B : WX-RB922またはWX-RB910 (806.125 MHz~809.750 MHz)
第1中間周波数 (本機入力周波数)	XL、XHバンド : 245.975 MHz~250.350 MHz AL、AH、Bバンド : 257.975 MHz~262.350 MHz
第2中間周波数	10.7 MHz (全チャンネル共通)
アンテナ入力	50 Ω、A系B系 (BNCコネクター) ・ファンタム電源出力 12 V 70 mA (最大) ・ローカル出力 選択バンドのローカル周波数 (44 MHz~45 MHz帯) による
ローカル周波数	XL=44.4292 MHz、XH=44.8042 MHz、AL=44.9292 MHz、 AH=45.3042 MHz、B=45.6583 MHz
ローカル入力	50 Ω 44 MHz~45 MHz帯 (BNCコネクター)
ローカル出力	50 Ω 44 MHz~45 MHz帯 (BNCコネクター)
受信感度	S/N 30 dB以上 (20 dB $\mu$ V入力、 $\pm$ 5 kHz FM/無変調時との差)
受信帯域幅	110 kHz
レベルスケルチ	解除/ Low/ High 切替可能 (Low : 20 dB $\mu$ V以下、High : Low+6 dB)
トーンスケルチ	解除/R設定/R+P設定 切替可能 (R : RAMSAトーン=32.927 kHz、P : Panasonicトーン=32.768 kHz)
基準出力レベル	-20 dB/-60 dB 切替可能 (600 Ω負荷) 0 dB=0.775 Vrms
信号対雑音比	60 dB以上 (60 dB $\mu$ V入力、 $\pm$ 5 kHz FM/無変調時との差)
ダイナミックレンジ	100 dB以上
ディエンファシス	50 $\mu$ sec
音声信号処理	1 : 2デシリア伸張
周波数特性	50 Hz~15 kHz
ひずみ率	3.0 %以下 (60 dB $\mu$ V入力、 $\pm$ 40 kHz FMにて)
音声出力端子	XLR-3-32 キャノン相当 (1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)
モニター基準出力	-17 dBV (VR最大、8 Ω負荷時)
モニター信号対雑音	54 dB以上
モニター切替	チューナー1、チューナー2 選択可能 チューナー1選択時 : L+R出力 チューナー2選択時 : L+R出力 チューナー1・2選択時 : L (チューナー1) + R (チューナー2) 出力
ダイバシティ表示	A系B系ダイバシティ表示 (選択側 : 緑表示、非選択側 : 橙表示、スケルチ時 : 消灯)
受信レベル表示	4ポイント表示 (選択側 : 緑表示、非選択側 : 橙表示、スケルチ時 : 赤表示)
音声出力レベル表示	-30 dB以上 : 1緑表示、-20 dB以上 : 1・2緑表示、 -10 dB以上 : 1~3緑表示、0 dB以上 : 1~3緑表示・4橙表示、 10 dB以上 : 1~4赤表示
受信感度切替	フィールド感度 : -8 dB/-4 dB/0 dB アンテナ感度 : -8 dB/-4 dB/0 dB



# 周波数表

## 周波数表：AX帯（FPU-2帯）

バンド	FPU-2 帯 連番	バンド 連番	受信周波数 [MHz]	バンド単独使用時のグループ								多チャンネル使用時のグループ					
				1	2	3	4	5	6	7	-	XL+XH					
				6波	6波	6波	6波	5波	1波	7波	※注	1	2	3	4		
XLバンド	1	1	779.125	L11							L71		LH11				
	2	2	779.250		L21									LH31			
	3	3	779.375	L12							L72		LH21			LH41	
	4	4	779.500		L22												LH42
	5	5	779.625			L31								LH22			
	6	6	779.750				L41										
	7	7	779.875					L32			L73		LH12				
	8	8	780.000		L23												
	9	9	780.125	L13										LH23			
	10	10	780.250						L61								
	11	11	780.375			L33											
	12	12	780.500				L42				L74			LH24			
	13	13	780.625					L51									
	14	14	780.750	L14											LH32		
	15	15	780.875		L24								LH13			LH43	
	16	16	781.000				L43										
	17	17	781.125					L52									
	18	18	781.250			L34											
	19	19	781.375						L53								
	20	20	781.500		L25						L75						
	21	21	781.625			L35									LH33		
	22	22	781.750					L54									
	23	23	781.875		L26									LH25			
	24	24	782.000	L15											LH34		
	25	25	782.125				L44						LH14				
	26	26	782.250			L36											
	27	27	782.375				L45				L76						
	28	28	782.500	L16									LH15				
	29	29	782.625					L55								LH44	
	30	30	782.750				L46				L77			LH16			
	31	31	782.875									L-1		LH26			
	32	32	783.000									L-2					
	33	33	783.125									L-3					
	34	34	783.250									L-4					
	35	35	783.375									L-5					
	36	36	783.500									L-6					
XHバンド	37	1	783.625	H11							H71			LH35			
	38	2	783.750		H21												
	39	3	783.875	H12							H72						
	40	4	784.000		H22												
	41	5	784.125			H31											
	42	6	784.250				H41								LH36	LH45	
	43	7	784.375					H32			H73						
	44	8	784.500		H23									LH27			
	45	9	784.625	H13													
	46	10	784.750						H61								
	47	11	784.875			H33							LH17				LH46
	48	12	785.000				H42				H74						
	49	13	785.125					H51									
	50	14	785.250		H14												
	51	15	785.375		H24										LH37		
	52	16	785.500				H43										
	53	17	785.625					H52									
	54	18	785.750			H34											
	55	19	785.875					H53									
	56	20	786.000		H25						H75		LH18	LH28			
	57	21	786.125			H35											
	58	22	786.250					H54								LH47	
	59	23	786.375		H26												
	60	24	786.500	H15													
	61	25	786.625				H44							LH29			
	62	26	786.750			H36									LH38		
	63	27	786.875				H45				H76		LH19			LH48	
	64	28	787.000		H16												
	65	29	787.125					H55									
	66	30	787.250				H46				H77				LH39	LH49	
	67	31	787.375									H-1	LH1A				
	68	32	787.500									H-2			LH3A		
	69	33	787.625									H-3					
	70	34	787.750									H-4				LH4A	
	71	35	787.875									H-5					
	72	36	788.000											LH2A			

●周波数表中の記号の読み方

例1  $L \ 2 \ 1$   
 ↑ ↑ ↑  
 チャンネルを表します。  
 グループを表します。-は [-] グループを表します。  
 バンドを表します。LはXL、HはXHを表します。

例2  $LH \ 2 \ A$   
 ↑ ↑ ↑  
 チャンネルを表します。\*  
 グループを表します。  
 バンドを表します。LHはXL+XHを表します。  
 \*Aは10チャンネル目に相当します。

- [1]~[7]グループでは、各チャンネルは同時に使用することができます。
- [-]グループの各チャンネルは、同時に使用することはできません。[-]グループでは、必ず1つのチャンネルを設定してください。（※注：XLバンドは6波、XHバンドは5波）
- 本機が多チャンネル使用時の周波数表は、ENG/EFP用ワイヤレス受信機（WX-RJX800）の周波数表とは内容が異なりますのでご注意ください。

必要なとき

# 周波数表

## 周波数表：A帯（FPU-4帯）・B帯

バンド	FPU-4帯・B帯連番	バンド連番	受信周波数 [MHz]	バンド単独使用時のグループ								多チャンネル使用時のグループ																						
				1 6波	2 6波	3 6波	4 6波	5 5波	6 1波	7 7波	— ※注	AL+AH				AL+B				AH+B				AL+AH+B										
A L バ ン ド	1	1	797.125	L11						L71					LH11		LH31				LB11		LB31				LHB11			LHB41				
	2	2	797.250		L21											LH21					LB12				LB41			LHB21						
	3	3	797.375	L12							L72							LH41						LB22				LHB12	LHB22		LHB31			
	36	36	801.500													LH26								LB34										
	A H バ ン ド	37	1	801.625	H11						H71							LH35										HB11		HB31		HB41		
		38	2	801.750		H21																							HB21					
		39	3	801.875	H12							H72																	HB32				LHB25	
		71	35	805.875													H-5	LH1A		LH3A									HB16				LHB28	
		72	36	806.000	割り当てなし													LH2A																

●周波数表中の記号の読み方

例1 B 2 1  
 ↑ ↑ ↑  
 ① チャンネルを表します。  
 ② グループを表します。—は [—] グループを表します。  
 ③ バンドを表します。LはAL、HはAHを表します。

例2 LHB 2 A  
 ↑ ↑ ↑  
 ① チャンネルを表します。\*  
 ② グループを表します。  
 ③ バンドを表します。  
 LHはAL+AH、LBはAL+B、HBはAH+B、  
 LHBはAL+AH+Bを表します。

\* Aは10チャンネル目  
 bは11チャンネル目  
 Cは12チャンネル目に相当します。

- 多チャンネル使用時は、Bバンドの周波数表もお読みください。
- [1]~[7]グループでは、各チャンネルは同時に使用することができません。
- [—]グループの各チャンネルは、同時に使用することはできません。[—]グループでは、必ず1つのチャンネルを設定してください。（※注：ALバンドは6波、AHバンドは5波）
- 本機が多チャンネル使用時の周波数表は、ENG/EFP用ワイヤレス受信機（WX-RJ800、WX-RJ700）の周波数表とは内容が異なりますのでご注意ください。

必要とき



# 保証とアフターサービス

よくお読みください

修理・お取り扱い・お手入れ  
などのご相談は…

まず、お買い上げの販売店へ  
お申し付けください

## ■保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

## ■補修用性能部品の保有期間

当社は、このワイヤレス受信機の補修用性能部品を、製造打ち切り後7年保有しています。  
注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## 修理を依頼される時

43～47ページの表に従ってご確認のあと、なお異常のあるときは、電源スイッチを「OFF」にしてから、電源プラグを抜き、お買い上げの販売店へご連絡ください。

### ●保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

### ●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。下記修理料金の仕組みをご参照のうえ、ご相談ください。

### ●修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

**技術料** は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

**部品代** は、修理に使用した部品および補助材料代です。

**出張料** は、お客様のご依頼により製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

### ご連絡いただきたい内容

製品名	ワイヤレス受信機
品番	WX-R822
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に

便利メモ おぼえのため 記入されると 便利です	お買い上げ日	年 月 日	品番	WX-R822
	販売店名	電話 ( ) -		

## パナソニック株式会社 コネクティッドソリューションズ社

〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号 電話 フリーダイヤル 0120-878-410